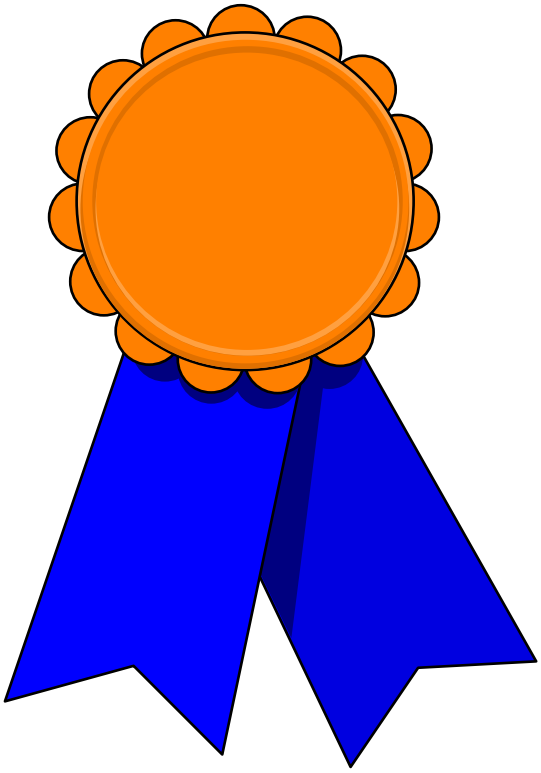
Azia'n Transfer入門



ソフト・アンド・ソウル

目次

1　Azia'n Transfer に触れる前に 6
1.1　Azia'n Transfer とは？ 6
1.2　Azia'n Transfer の構成 6
1.3　Azia'n Transfer の特徴 7
1.3.1　ホストコンピュータとパソコンの仲立 7
1.3.2　機種の壁を越えた共通性 7
1.3.3　基本操作の統一 7
2　Azia'n Transfer の起動 8
2.1　Azia'n Transfer の起動 8
2.1.1　ＥＴＯＳエミュレータを立ち上げる 8
2.1.2　オンラインと接続する 8
2.1.3　VIS の初期画面が表示される 9
2.1.4　Azia'n Transfer のメニュー画面が表示される 9
☺　VIS メニュー管理システム 10
3　Azia'n Transfer の終了 11
３．１　Azia'n Transfer の終了１ 11
3.1.1　選択番号入力画面から終了する 11
３.2　Azia'n Transfer の終了 2 11
4　基本操作 12
4.1　マウスを利用できる環境設定をする 12
4.2　動作端末環境を登録する 13
4.2.1　加入者情報メンテナンス画面を表示する 13
4.2.2　加入者情報メンテナンス画面から動作端末・プリンタを登録する 13
4.2.3　送受信端末情報メンテナンス画面を表示する 14
4.2.4　送受信端末情報メンテナンス画面から送受信端末情報を更新する 14
4.2.5　プリンタ端末情報メンテナンス画面を表示する 15
4.2.6　プリンタ端末情報メンテナンス画面からプリンタ端末情報を更新する 15
4.2.7　ファイル情報メンテナンス画面を表示する 16
4.2.8　ファイル情報メンテナンス画面からファイル情報を登録する 16
4.2.9　帳票情報メンテナンス画面を表示する 17
4.2.10　帳票情報メンテナンス画面から帳票情報を登録する 17
4.3　パソコンの情報をＡＣＯＳに転送する 18
4.3.1　表計算ソフトで作成されたデータをテキスト形式で保存する 18
4.3.2　テキストデータをＡＣＯＳに送信する 18
4.3.4　ＡＣＯＳに送信・格納されたデータを取り出し業務で利用する 19

☺　区切り文字付きテキストファイル変換モジュール（PC to ACOS）　21
4.4　ＡＣＯＳの情報をパソコンの表計算ソフトで利用する 22
4.4.1　ＡＣＯＳの業務データを Azia'n Transfer へ登録する 22
4.4.3　テキストデータ受信中の画面とその確認.....23
4.4.4　受信した情報を表計算ソフトで開く.....24
☺　区切り文字付きテキストファイル変換モジュール（ACOS to PC）　25
4.5　ＡＣＯＳの帳票情報をＰＣ／端末プリンタに印刷する 26
4.5.1　ＡＣＯＳの業務帳票データを Azia'n Transfer へ登録する 26
4.5.2　登録した帳票情報を印刷する.....27
4.6　ＡＣＯＳの帳票情報をＰＣ／端末画面から検索する 28
4.6.1　ＡＣＯＳの業務帳票データを Azia'n Transfer へ登録する 28
4.6.2　登録した帳票情報を受信する.....29
4.6.3　帳票情報受信中の画面とその確認.....29
4.6.4　受信した情報をメモ帳やワードパット，ライトで開く.....30
5　応用.....31
5.1　アイコンをクリックするだけで送受信処理を行う 31
5.1.1　コマンドファイルの作成.....31
5.1.2　簡易操作実行用ＥＴＯＳリソースの作成.....32
5.1.3　実行用アイコンの作成.....32
5.1.4　アイコンをクリックして送受信処理を行う.....33
☺　送信の簡易操作スクリプト記述例..... 34
5.2　メニューから選択するだけで送信処理を行う 35
5.2.1　ファイル送信時画面情報を表示する.....35
5.2.2　ファイル送信画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する.36
5.2.3　メニュー画面情報メンテナンス画面を表示する.....37
5.2.4　メニュー画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する.....37
5.2.5　実際にメニューから選択して送信処理を行う.....38
5.3　メニューから選択するだけで受信処理を行う 39
5.3.1　ファイル受信時画面情報を表示する.....39
5.3.2　ファイル受信画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する.40
5.3.3　メニュー画面情報メンテナンス画面を表示する.....41
5.3.4　メニュー画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する.....41
5.3.5　実際にメニューから選択して受信処理を行う.....42
5.4　ファイル送信完了と同時にバッチ処理を起動する 43

5.4.1　ファイル作成時情報を表示する。 43
5.4.2　ファイル作成時情報メンテナンス画面から起動処理情報を登録する ...44
☺　　ＡＶＥＣＳ　ＶＩＳジョブ管理システムとは..... 45
5.5　ファイル毎に状態を検索する 46
5.5.1　ファイル別明細状況検索画面を表示する 46
5.5.2　ファイル別明細状況検索画面から状態を表示する 47
5.6　ホスト主導型での自動送受信 48
5.6.1　受動送受信画面を表示する 48
5.6.2　受動送受信画面を終了する 49
5.6.3　ホストで作成されたデータを即、端末へ自動配信する(\AZFSET 応用) .50
5.6.4　予め Azia'n Transfer に登録したﾃﾞｰﾀに対しての自動配信要求(JCL) ..51
5.6.5　予め Azia'n Transfer に登録したﾃﾞｰﾀに対しての自動配信要求(画面) .52
5.6.6　予めパソコンに存在するﾃﾞｰﾀに対しての自動集信要求(JCL) 54
5.6.7　予めパソコンに存在するﾃﾞｰﾀに対しての自動集信要求(画面) 55
5.7　ＡＣＯＳの帳票を今すぐホームページとして提供 57
5.7.1　ＡＣＯＳの業務帳票データを Azia'n Transfer へ登録する 57
5.7.2　登録した帳票情報をホームページとして受信する 58
5.7.3　帳票情報受信中の画面とその確認.....58
5.7.4　受信した帳票情報をブラウザで開く 59
5.8　Ａｚｉａ'ｎ　ＴｒａｎｓｆｅｒのＲＪＥ機能 61
5.8.1　ＡＣＯＳ送信用のＪＣＬデータを用意する 61
5.8.2　ＪＣＬデータをＡＣＯＳに送信する 61
5.8.3　ＪＣＬデータ送信中の画面と起動確認.....62
5.9　加入者毎，又は端末毎に表示するメニューを変える。 63
5.9.1　ＶＩＳメニュー情報メンテナンス画面を表示する。 63
5.9.2　個別メニュー画面を作成する。 64
5.9.3　資源別メニュー情報メンテナンス画面を表示する。 65
5.9.4　資源別メニュー情報を登録する。 65
5.10　Azia'n Transfer 経由印刷後のプリンタ制御 66
5.10.1　端末制御情報メンテナンス画面を表示する 66
5.10.2　端末制御情報メンテナンス画面を使ってシーケンスを登録する 67
5.10.3　登録したシーケンスをプリンタ単位に設定する 68
5.10.4　登録したシーケンスを帳票単位に設定する 68
5.11　Azia'n Transfer を使った PC-COBOL の利用 69
5.11.1　固定長順ﾌｧｲﾙを Azia'n Transfer システムに登録する 69
5.11.2　登録された固定長順ファイルをパソコンに受信する 70

5.11.3　固定長順ファイルをホストに送信する 70
5.11.4　登録された固定長順ﾌｧｲﾙを Azia'n Transfer システムから取得する ..71
6 ヘルプを使う 72
6.1　説明（ヘルプ）の使い方 72

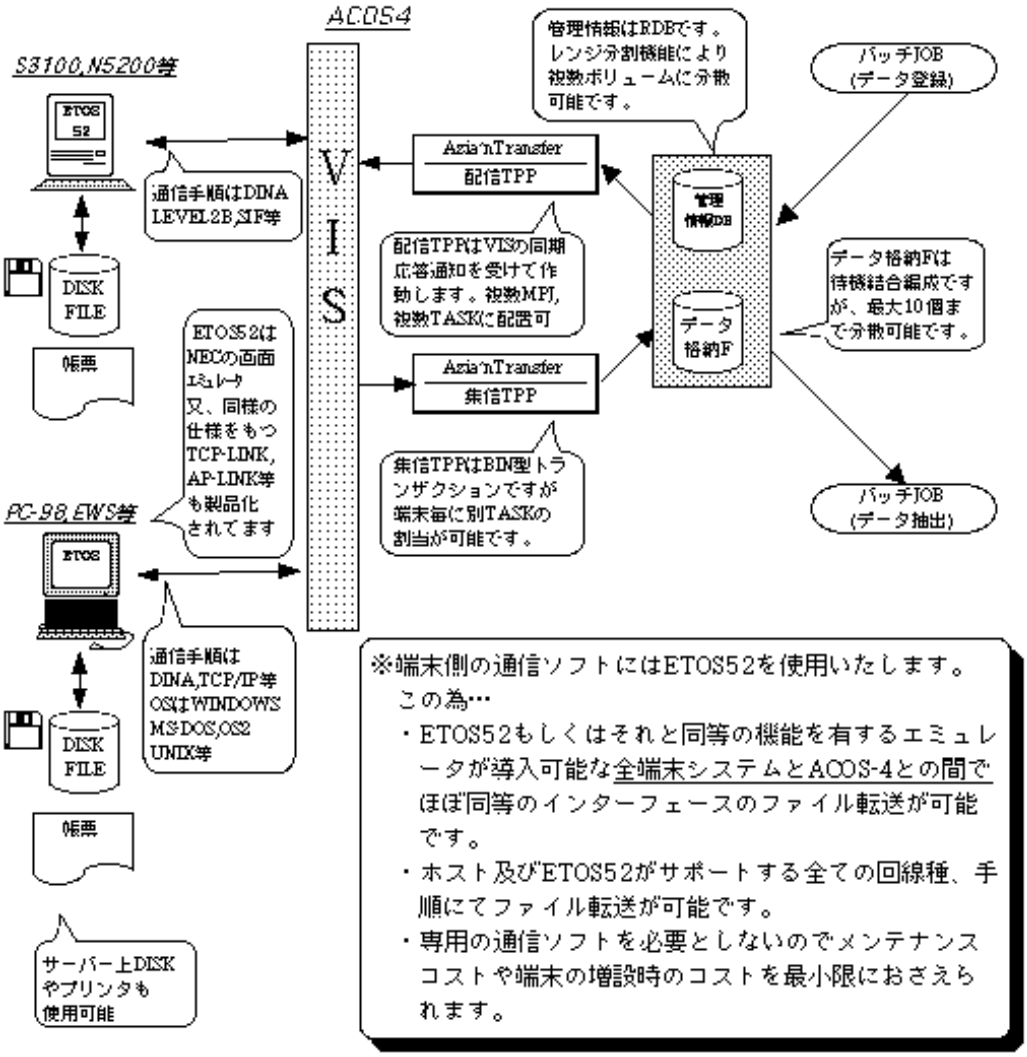
1　Azia'n Transferに触れる前に

1.1　Azia'n Transferとは？

Azia'n Transferとは、昨今のオープン化、ダウンサイジングといった流れの中でＡＣＯＳ４をプロセスサーバーや基幹ＤＢサーバーとしてそのポテンシャルを発揮させていく為の一助となるべく開発したファイル交換ソフトです。ＡＣＯＳ４ホストとＥＴＯＳエミュレータを実装した各種端末システムとの間で、データファイルの送受信をしたりＡＣＯＳ側で作成された帳票を端末プリンタに印刷したりテキストデータとしてディスクに作成したりします。また、最近話題のインターネット・イントラネットにも対応可能な様にホスト側で作成された帳票イメージをそのままＨＴＭＬ形式のホームページとしてご提供しています。

1.2　Azia'n Transferの構成

Azia'n Transferが動く環境として、基本的なハードウェアの構成を示します。



1.3　Azia'n Transferの特徴

Azia'n Transferの特徴はいろいろあります。その中からいくつか挙げてみましょう。

1.3.1　　ホストコンピュータとパソコンの仲立

現在お持ちのホストコンピュータの情報をパソコン側に渡したり、パソコンで持つ情報をホストコンピュータに渡したりと、ホストコンピュータとパソコンの仲立をしてくれます。そして、ワープロや表計算やデータベース，インターネットブラウザといった様々なソフトウェアへ簡単に移行して利用出来るようにします。

1.3.2　　機種の壁を越えた共通性

現在、様々なメーカーからパソコンが発売されています。しかし、Azia'n Transferは原則としてどのメーカーのパソコンでもETOSエミュレータが動いているパソコンなら、使うことができます。例えば、今まで利用していた情報系の端末（N5200,S3100など）やDOS,DOS/V,UNIX,Express,OP-X,・・等々でもパソコンと同じ操作方法で同じ情報交換のサービスが受けられます。また、情報系端末の持つ情報（例えばLANPLANで作成した表データ）をパソコンのEXCELやLOTUS1-2-3でも利用したい場合にもＡＣＯＳをゲートウェイとして、簡単に情報交換ができます。

1.3.3　　基本操作の統一

どのパソコン・端末でも、基本的な操作の方法が統一されています。例えば「PC98」と「N5200」は異なるコンピュータですが、共通してＶＩＳのＴＰＰをエンジンにしているためメニューの表示やマウスの使い方等、基本的な操作の方法は同じです。はじめて使うコンピュータでもある程度操作方法を予測することができます。また、画面がビジュアルにできているので直感的で、かつ試行錯誤しながら操作することができます。

2　Azia'n Transferの起動

2.1　Azia'n Transferの起動

2.1.1　ＥＴＯＳエミュレータを立ち上げる

ＥＴＯＳエミュレータを起動します。以下の画面が表示されます。

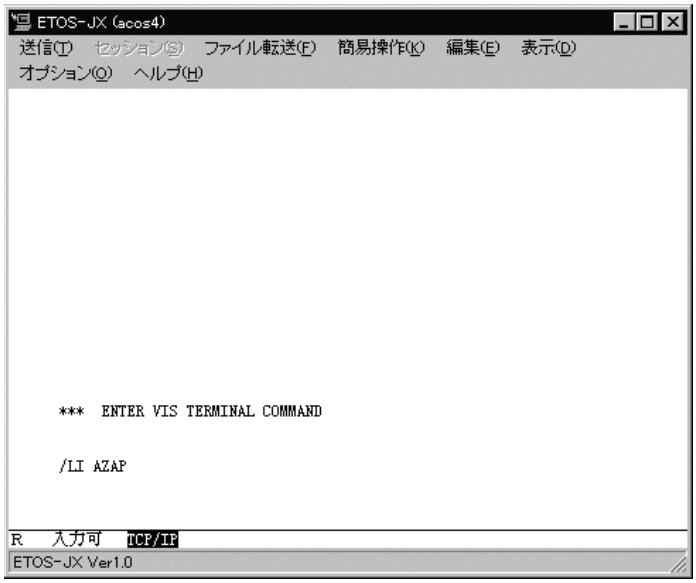
2.1.2　オンラインと接続する

キーボードから"\CON VIS"と入力し、最後に実行キーを押してください。

この画面からは、大文字としてしか認識しませんので、注意してください。

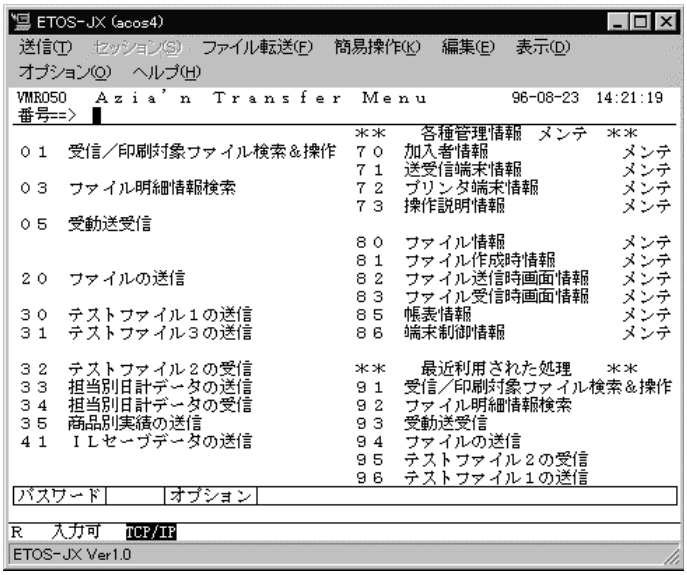
2.1.3　　VIS の初期画面が表示される

“CONREQ CONPLETED”のメッセージが表示された後、しばらくすると、VIS の初期画面が表示されます。但し、この初期段階では設定により異なる画面であったり、既に業務に接続されていることがありますので、このような場合には LO(LOGOUT)コマンドで現在の業務から切り離し、コマンド入力画面から”/LI AZAP”と入力し、実行キーを押してください。



2.1.4　　Azia'n Transferのメニュー画面が表示される

Azia'n Transfer を起動すると最初に AVECS の VIS メニュー管理システムから「 Azia'n Transfer Menu」が現われます。このメニュー画面から、すべての送受信操作や各種のメンテナンス操作を行います。

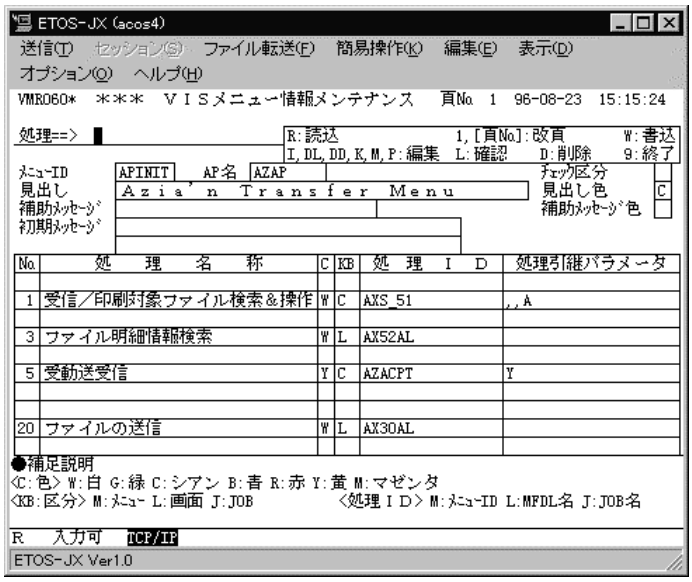


POINT <メニュー画面>

☺　VISメニュー管理システム

VISメニュー管理システムは、ＡＶＥＣＳシステムコンポーネントの一部であり、VISにおける各種処理選択の為のメニュー機能を汎用的に提供することを目的に開発されたサブシステムです。本メニューはLIEXIT,AP内におけるPFキー押下、もしくは専用のサブルーチンのいずれかによって呼び出されます。また、本メニューからは、各ユーザーTPPの初期画面、本システムの他のメニュー画面、AVECSや Azia'n Transferの各処理画面等の選択やAVECS/VJ配下のJOB起動を行う事が可能です。尚、各処理から本メニューに戻るときは、基本的に専用のサブルーチンを用いますが、業務処理が問い合わせ(INQ)型となっている場合にはPFキーによって戻ることも可能です。

本システムは Azia'n Transferに標準装備されています。既存業務メニューに応用される場合には弊社担当SEにご相談ください。



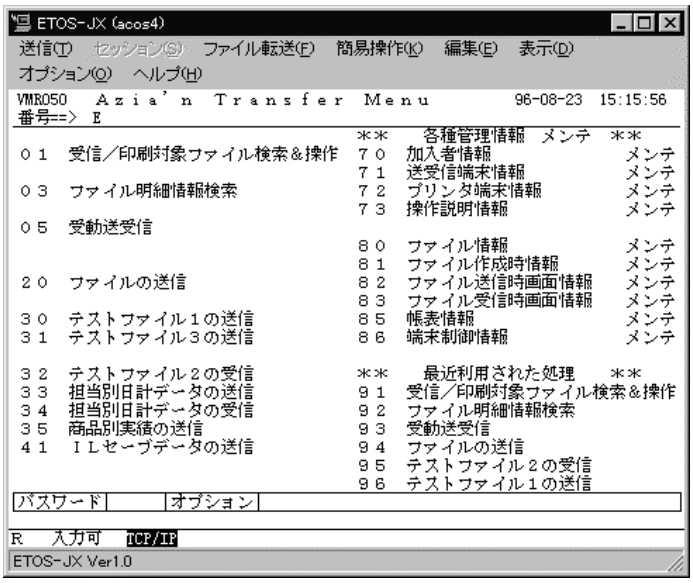
－メンテナンス画面－

3　Azia'n Transferの終了

3.1　Azia'n Transferの終了１

3.1.1　　選択番号入力画面から終了する

「番号==>」にカーソルを合わせて”E”を入力し実行キーを押す。

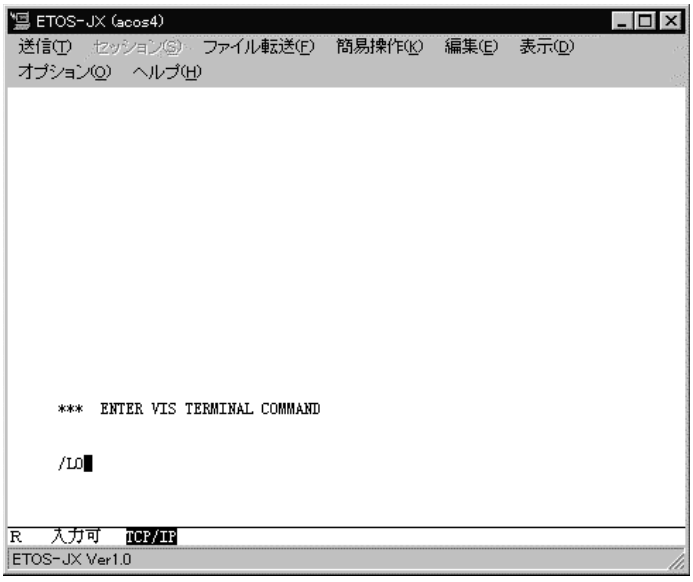


3.2　　Azia'n Transferの終了2

Azia'n Transfer を終了させる、もう一つのやり方を説明します。

3.2.1　　コマンド入力画面から終了する

コマンド入力画面から”/L0”と入力し、実行キーを押してください。



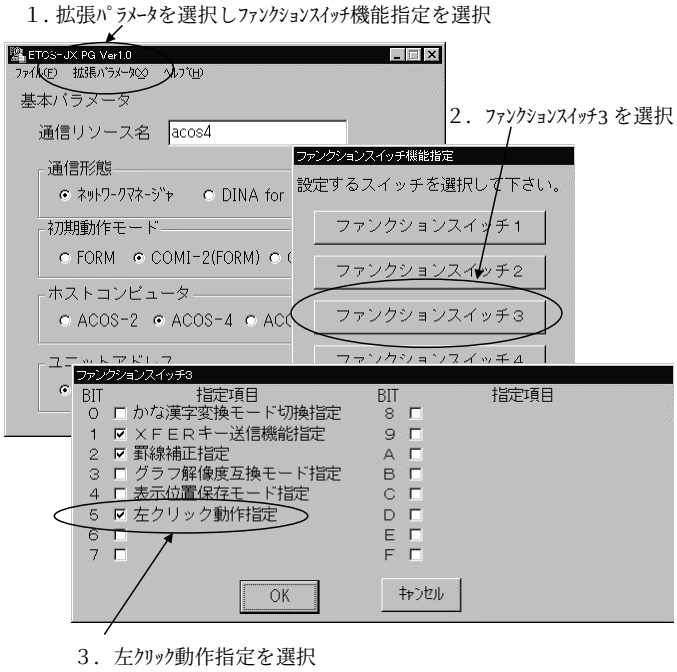
4　基本操作

Azia'n Transferでは、画面に表示されるいろいろなものを動作指示するために、マウスやカーソルを使います。ここでは、マウスやカーソルの操作方法を説明します。

4.1　マウスを利用できる環境設定をする

ETOSエミュレータの初期値ではマウスをクリックしてもカーソルが移動しません。Azia'n Transferではほとんどの指示においてマウス対応されており、Windowsの特異性が生かせません。このためETOSエミュレータ生成用プログラムモジュール(ETOS-JXPG)において再設定しておく必要があります。

尚、本設定はWindows95のETOS-JX Ver1.0以降に対応しておりこれより前のバージョンではカーソルによる移動で利用してください。



ETOSエミュレータを再起動するまでは前の設定が生きていますので、本設定内容を利用する場合にはETOSエミュレータを再起動してください。

4.2　動作端末環境を登録する

4.2.1　　加入者情報メンテナンス画面を表示する

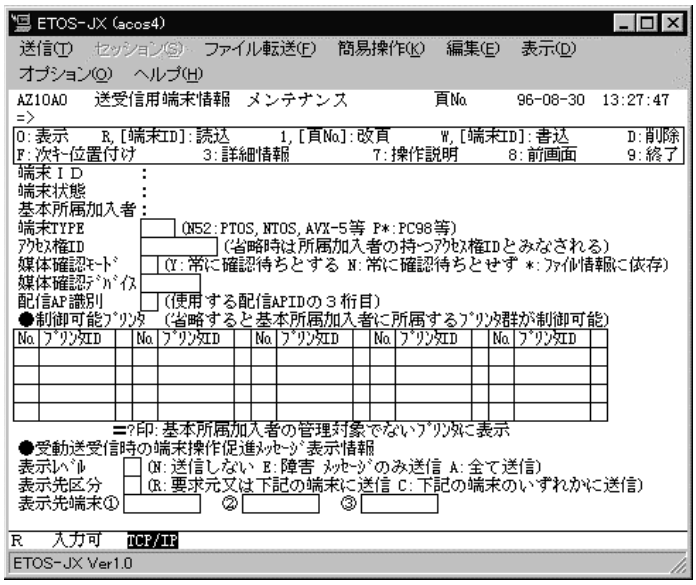
「 Azia'n Transfer Menu」から加入者情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”70”を入力し実行キーを押すと「加入者情報メンテナンス画面」が表示されます。

4.2.2　　加入者情報メンテナンス画面から動作端末・プリンタを登録する

加入者名称、所属送受信用端末情報、所属プリンタ端末情報、端末種別既定値、プリンタ種別既定値を入力の後、「=>」の位置で”W△加入者コード”を入力して実行を押します。画面下に「加入者情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

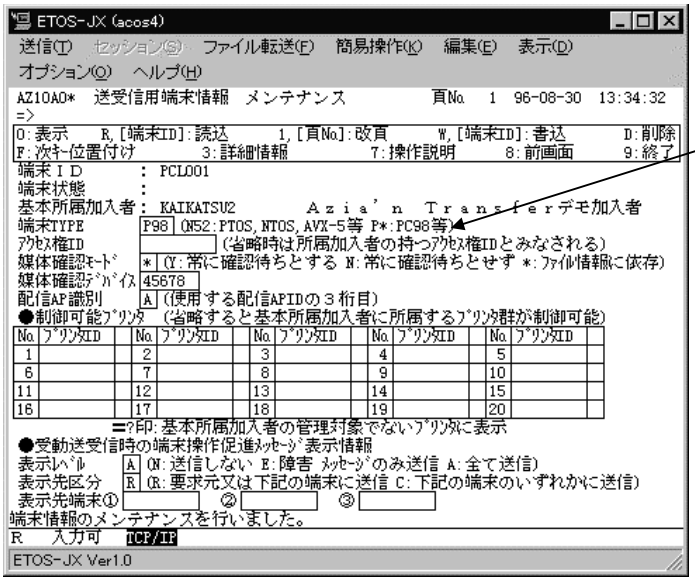
4.2.3　　送受信端末情報メンテナンス画面を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」から送受信端末情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”71”を入力し実行キーを押すと「送受信端末情報メンテナンス画面」が表示されます。



4.2.4　　送受信端末情報メンテナンス画面から送受信端末情報を更新する

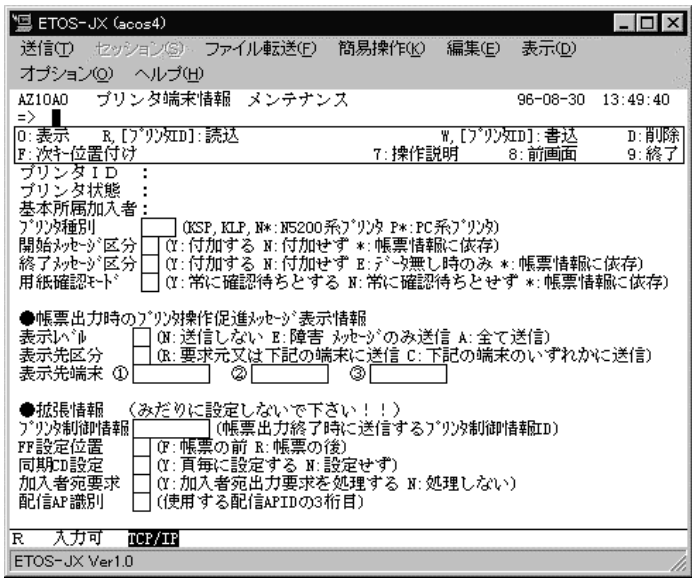
端末ＩＤを入力の後、「=>」の位置で”W△端末ＩＤ”を入力して実行を押します。画面下に「端末情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。※通常、加入者情報のメンテナンス画面から登録すると自動的に登録されますが、ＰＣ系端末と情報系端末が混在するような場合には当該画面の端末 TYPE を修正する必要があります。



例）端末 TYPE
情報系端末：N52
PC98 端末：P98
DOS/V 端末：PC

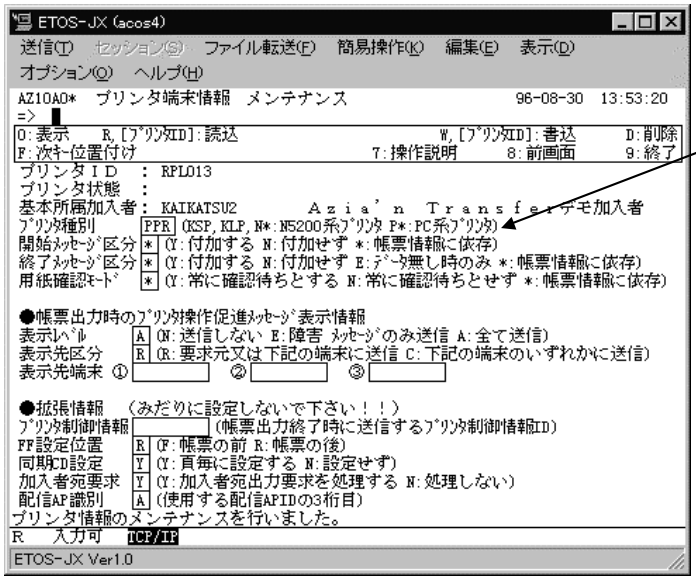
4.2.5　　プリンタ端末情報メンテナンス画面を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」からプリンタ端末情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”72”を入力し実行キーを押すと「プリンタ端末情報メンテナンス画面」が表示されます。



4.2.6　　プリンタ端末情報メンテナンス画面からプリンタ端末情報を更新する

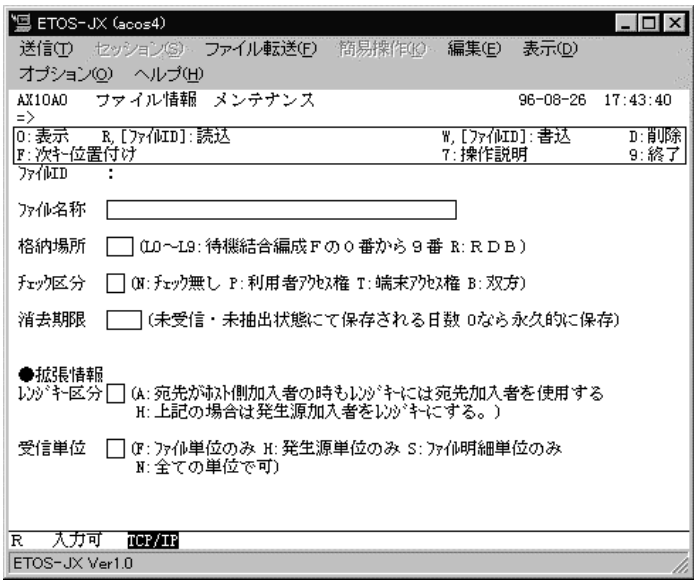
プリンタＩＤを入力の後、「=>」の位置で”W△プリンタＩＤ”を入力して実行を押します。画面下に「プリンタ情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。※通常、加入者情報のメンテナンス画面から登録すると自動的に登録されますが、ＰＣ系プリンタと情報系プリンタが混在するような場合には当該画面のプリンタ種別を修正する必要があります。



例）ﾌﾟﾘﾝﾀ種別
<情報系ﾌﾟﾘﾝﾀ>
漢字ｼﾘｱﾙ:KSP
漢字ﾗｲﾝ　:KLP
<ＰＣ系ﾌﾟﾘﾝﾀ>
PR201 系:PPR
NIP 系　:PNP

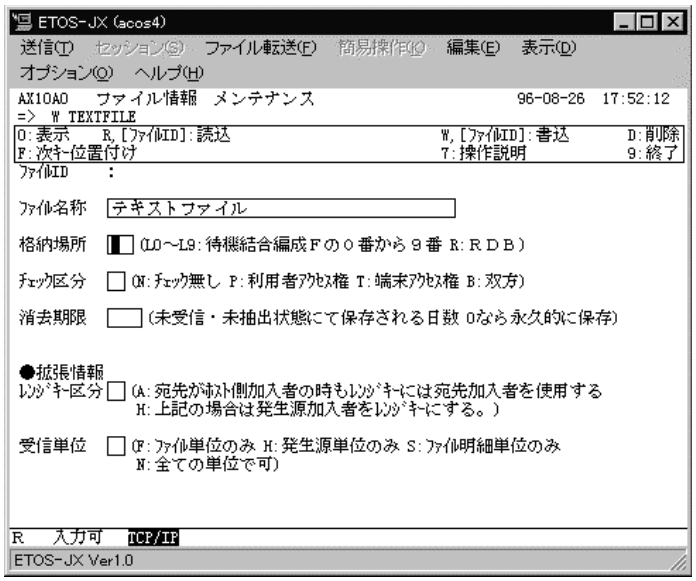
4.2.7　　ファイル情報メンテナンス画面を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」からファイル情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”80”を入力し実行キーを押すと「ファイル情報メンテナンス画面」が表示されます。



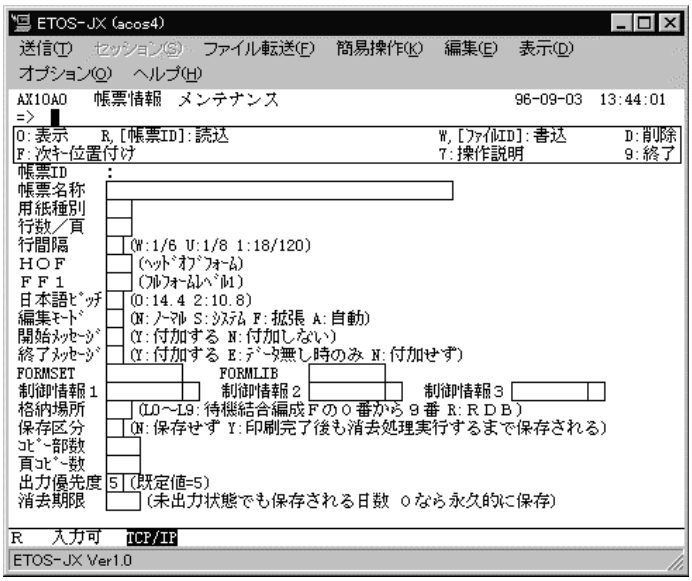
4.2.8　　ファイル情報メンテナンス画面からファイル情報を登録する

ファイル名称を入力の後、「=>」の位置で”W△ファイルＩＤ”を入力して実行を押します。画面下に「ファイル情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。



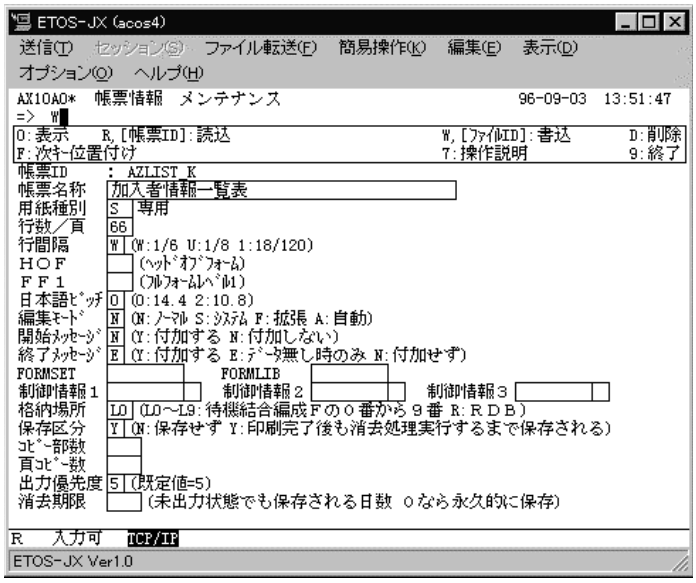
4.2.9　　帳票情報メンテナンス画面を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」から帳票情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”85”を入力し実行キーを押すと「帳票情報メンテナンス画面」が表示されます。



4.2.10　　帳票情報メンテナンス画面から帳票情報を登録する

ファイル名称を入力の後、「=>」の位置で”W△帳票ＩＤ”を入力して実行を押します。画面下に「帳票情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。



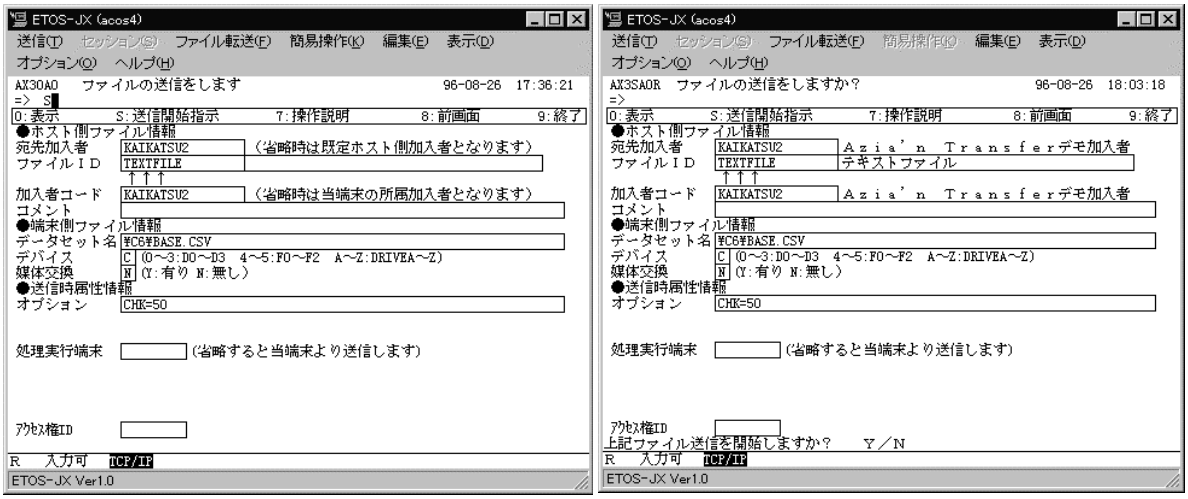
4.3　パソコンの情報をＡＣＯＳに転送する

4.3.1　　表計算ソフトで作成されたデータをテキスト形式で保存する

表計算ソフトで作成された情報をテキスト形式(CSV 又は TXT)に変更して保存します。

4.3.2　　テキストデータをＡＣＯＳに送信する

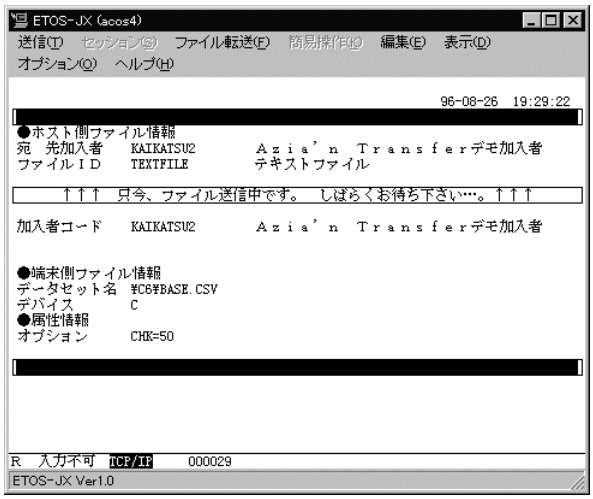
「 Azia'n Transfer Menu」からファイルの送信画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”20”を入力し実行キーを押すと「ファイル送信画面」が表示されます。次に必要項目に値を入力し、この状態で実行キーを押すと「上記ファイル送信を開始しますか？　Ｙ／Ｎ」を聞いてきますので”Ｙ”を入力すると送信が始まります。



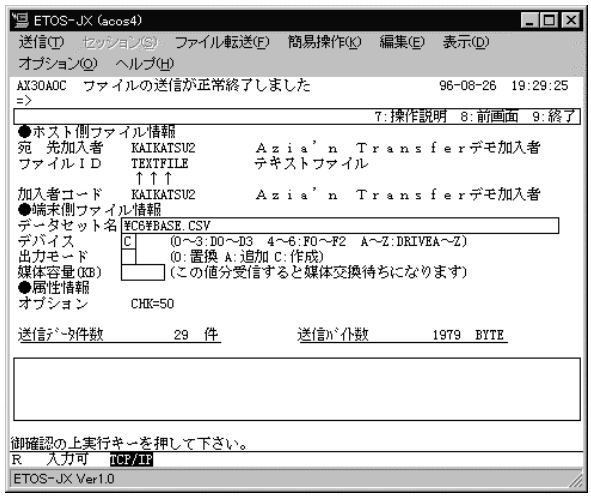
実行キー押下前　　実行キー押下後

4.3.3　テキストデータ送信中の画面とその確認

テキストデータの送信処理中は「只今、ファイル送信中です。しばらくお待ち下さい。」というメッセージが表示されます。このとき画面下中央に送信件数が表示されますので転送件数の目安にして下さい。送信処理が終了すると送信データ件数、送信バイト数が表示されますので確認した後、実行キーを押下すると初期メニュー「 Azia'n Transfer Menu」に戻ります。

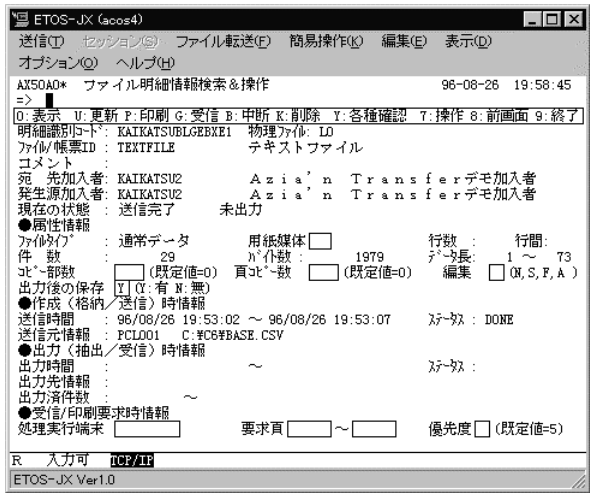


－1．送信処理中画面－



－2．送信処理終了画面

－3．受信／印刷対象ﾌｧｲﾙ　検索＆操作画面－



－4．ﾌｧｲﾙ明細情報検索＆操作－

初期メニューから「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示され先程転送したテキストデータの状態が確認できます。更に詳細な情報が必要な場合には「==>」にカーソルを合わせて”3”を入力し、続いて該当する明細にカーソルを合わせます。この状態で実行キーを押すと「ファイル明細情報検索＆操作」が表示されます。

4.3.4　　ＡＣＯＳに送信・格納されたデータを取り出し業務で利用する

パソコン及び端末からＡＣＯＳに送信・格納されたテキストデータをＡＣＯＳ業務処理で利用するために取り出してみましょう。Azia'n Transfer システムからのデータ取り出しには専用のＪＣＬ(”\AZFGET”)を利用して取り出します。

加入者 ”KAIKATSU2” に登録されている　ファイル “TEXTFILE” を取り出し、公用ボリューム(PUBLIC)に “TEXTDATA” という名前で出力します。このときに取り出すデータ形式が区切り文字付きテキストデータであるため、ﾌﾟﾗｸﾞｲﾝﾓｼﾞｭｰﾙ “AZTXCVPA” を利用してフォーマット変換し、業務処理で利用できる形式に変換したデータを出力します。

```
000010    \AZFGET    OUTFILE=(TEXTDATA PUBLIC SIZE=1)
000020               FLID=TEXTFILE            AKSCD=KAIKATSU2
000030               PLUGIN=AZTXCVPA          PLUGPRM=INPFORM
000040               PLUGOPT=(KANJI=KIKO,SEP=CSV,FORMAT=SYSIN);
000050    \INPUT     INPFORM;
000060    (X,1,8,N'１文字')(N,,5,N'２漢字')(9,,5,N'３数字')
000070    (S9,,5,N'４数字')(X,,8,N'５文字')(N,,5,N'６漢字')
000080    (C3,,5,N'７数字')(C2,,5,N'８数字')
000090    \ENDINPUT;
```

－**Azia'n transfer** ｼｽﾃﾑからの取り出し用 **JCL**－

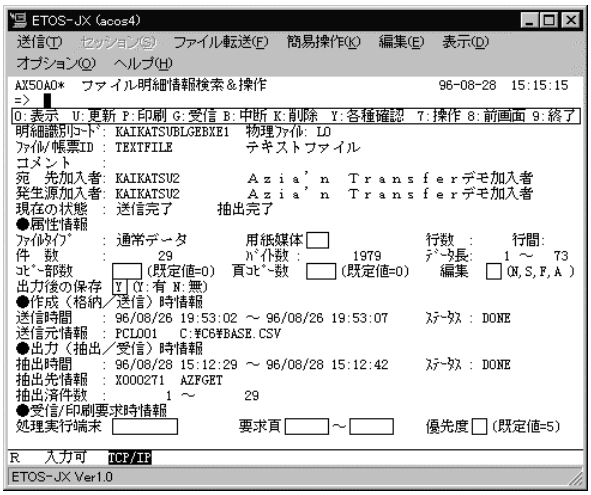
出力されるファイルのレイアウトは次のような形式で出力されます。

１文字	２漢字	**3** 数字	**4** 数字	５文字	６漢字	７数字	８数字
X(8)	N(5)	9(5)	S9(5)	X(8)	N(5)	S9(5) COMP-3	COMP-2

－取り出し処理により作成されるﾌｧｲﾙﾚｲｱｳﾄｲﾒｰｼﾞ－

※**\AZFGET** 及びﾌﾟﾗｸﾞｲﾝﾓｼﾞｭｰﾙの詳細は **Azia'n Transfer** ﾏﾆｭｱﾙをご覧ください。

「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」では状態が未出力から抽出完了へと変化します。



POINT <ＡＺＴＸＣＶＰＡ>

☺　区切り文字付きテキストファイル変換モジュール（PC to ACOS）

区切り文字付きテキストファイル変換モジュールは、 Azia'n Transfer システムのコンポーネントの一部（プラグインモジュール）であり、パソコンや端末で作成された表計算データをＡＣＯＳの内部で利用できる形式に変換するモジュールです。

（１）機能

￥ＡＺＦＧＥＴのプラグインモジュールである本プログラムはＩＮＦＩＬＥのパラメータにて指定されたデータファイルをＡＣＯＳアプリケーション用の「ＡＣＯＳ内部データ形式ファイル」に変換することを目的としています。変換元ファイルと変換先ファイルのレイアウト情報はＰＬＵＧＰＲＭで指定するＳＹＳＩＮパラメータにてレイアウト情報を与えます。また、区切り文字形式等の変換情報はＰＬＵＧＯＰＴから与えます。
尚、 ＳＹＳＩＮパラメータではＡＲＲＡＮＧＥ機能を利用することができます。

（２）ＪＯＢ制御言語

```
=================================================================
\AZFGET
                    PLUGIN=AZTXCVPA
                    PLUGOPT=(ｵﾌﾟｼｮﾝ文字列)
                    PLUGPRM=出力ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ記述領域名
                    OUTFILE=(出力ﾌｧｲﾙ記述)
                    ：
                    以後 \AZFGET のﾊﾟﾗﾒｰﾀ記述と同様。
=================================================================
```

4.4　ＡＣＯＳの情報をパソコンの表計算ソフトで利用する

4.4.1　　ＡＣＯＳの業務データをAzia'n Transferへ登録する

ＡＣＯＳの業務で利用しているデータをパソコンの表計算ソフトで利用するために一旦 Azia'n Transfer システムへ登録します。 Azia'n Transfer システムへのデータ登録には専用のＪＣＬ(“AZFSET”)を利用して登録します。

公用ボリューム(PUBLIC)に ”TEXTDATA” という名前で存在するファイルを入力にして加入者 ”KAIKATSU2” の　ファイル “TEXTFILE” へ格納します。このときに登録するデータ形式がＡＣＯＳ内部形式データであるため、プラクインモジュール “AZTXCVAP” を利用してフォーマット変換し、パソコン側の表計算ソフトで利用できる形式に変換したデータを登録します。

```
000010    \AZFSET    INFILE=(TEXTDATA PUBLIC  )
000020               FLID=TEXTFILE            AKSCD=KAIKATSU2
000030               ATRMID=PCL001            OPMD=N
000040               DSNM=/C6/BASE2.CSV       DV=C
000050               PLUGIN=AZTXCVAP          PLUGPRM=INPFORM
000060               PLUGOPT=(KANJI=KIKO,SEP=CSV,FORMAT=SYSIN);
000070    \INPUT     INPFORM;
000080    (X,1,8,N'１文字')(N,,5,N'２漢字')(9,,5,N'３数字')(S9,,5,N'４数字')
000090    (X,,8,N'５文字')(N,,5,N'６漢字')(C3,,5,N'７数字')(C2,,4,N'８数字')
000100    \ENDINPUT;
```

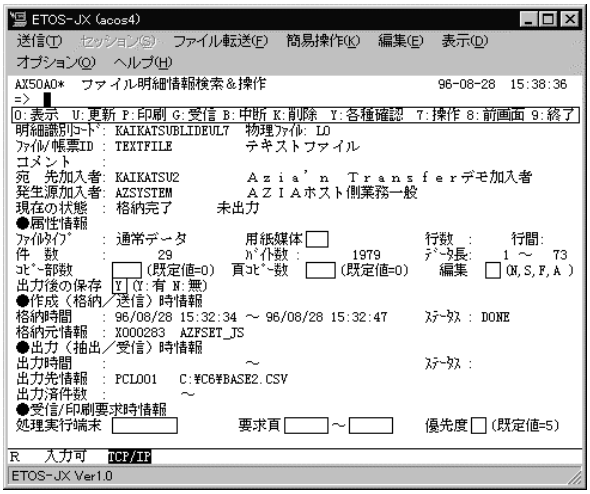
－Azia'n transfer ｼｽﾃﾑへの登録用 JCL－

入力となるファイルのレイアウトは次のような形式です。

１文字	２漢字	**3** 数字	**4** 数字	５文字	６漢字	７数字	８数字
X(8)	N(5)	9(5)	S9(5)	X(8)	N(5)	S9(5) COMP-3	COMP-2

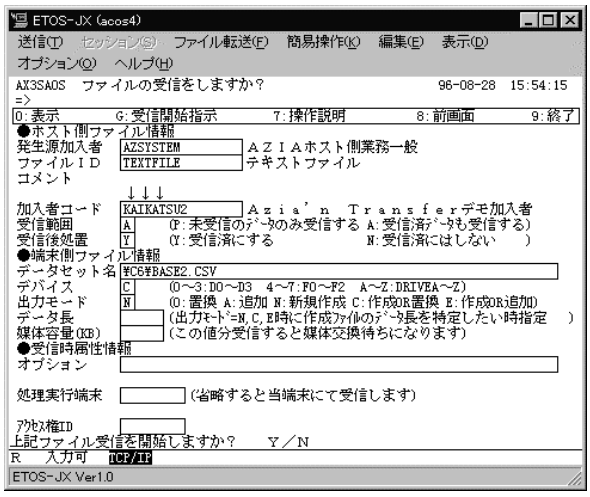
－登録処理により入力となるﾌｧｲﾙﾚｲｱｳﾄｲﾒｰｼﾞ－

※**\AZFSET** 及びﾌﾟﾗｸﾞｲﾝﾓｼﾞｭｰﾙの詳細は **Azia'n Transfer** ﾏﾆｭｱﾙをご覧ください。



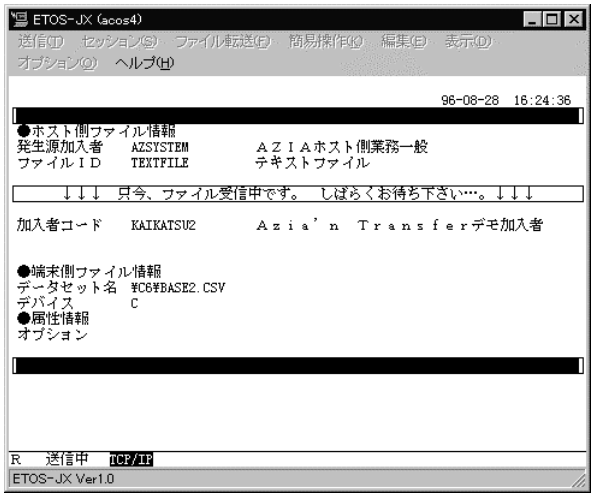
4.4.2　テキストデータをパソコンに受信する

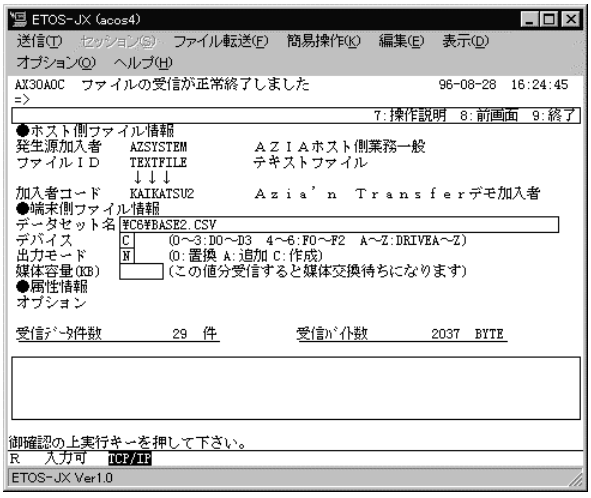
「 Azia'n Transfer Menu」から受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示されます。次に「番号==>」に”G”と入力し、受信したいファイル明細にカーソルを位置づけて実行キーを押すと「上記ファイル受信を開始しますか？　Y／N」を聞いてきますので”Y”を入力すると受信が始まります。



4.4.3　テキストデータ受信中の画面とその確認

テキストデータの受信処理中は「只今、ファイル受信中です。しばらくお待ち下さい。」というメッセージが表示されます。このとき画面下中央に転送件数が表示されますので受信件数の目安にして下さい。受信処理が終了すると受信データ件数、受信バイト数が表示されますので確認した後、実行キーを押下すると初期メニュー「 Azia'n Transfer Menu」に戻ります。



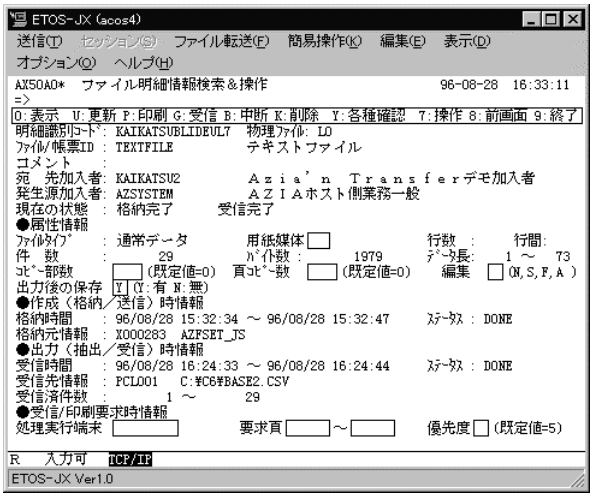


1．受信処理中画面　　2．受信処理終了画面

初期メニューから「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイ

ル　検索＆操作画面」が表示され先程受信したテキストデータの状態が確認できます。更に詳細な情報が必要な場合には「==>」にカーソルを合わせて”3”を入力し、続いて該当する明細にカーソルを合わせます。この状態で実行キーを押すと「ファイル明細情報検索＆操作」が表示されます。

３．受信／印刷対象ﾌｧｲﾙ　検索＆操作画面



４．ﾌｧｲﾙ明細情報検索＆操作

4.4.4　受信した情報を表計算ソフトで開く

受信した情報を表計算ソフトで開いてみましょう。

注）Windows3.1 ではﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの関連付けとして拡張子”csv”に EXCEL を関連付けする必要があります。

POINT <ＡＺＴＸＣＶＡＰ>

☺　区切り文字付きテキストファイル変換モジュール（ACOS to PC）

区切り文字付きテキストファイル変換モジュールは、 Azia'n Transfer システムのコンポーネントの一部（プラグインモジュール）であり、ＡＣＯＳで利用しているデータをパソコンや端末で利用している表計算データの形式に変換するモジュールです。

（１）機能

￥ＡＺＦＳＥＴのプラグインモジュールである本プログラムはＩＮＦＩＬＥのパラメータにて指定されたデータファイルをＰＣアプリケーション用の「区切り文字付テキストファイル」に変換することを目的としています。変換元ファイルと変換先ファイルのレイアウト情報はＰＬＵＧＰＲＭで指定するＳＹＳＩＮパラメータにてレイアウト情報を与えます。また、区切り文字形式等の変換情報はＰＬＵＧＯＰＴから与えます。
尚、 ＳＹＳＩＮパラメータではＡＲＲＡＮＧＥ機能を利用することができます。

（２）ＪＯＢ制御言語

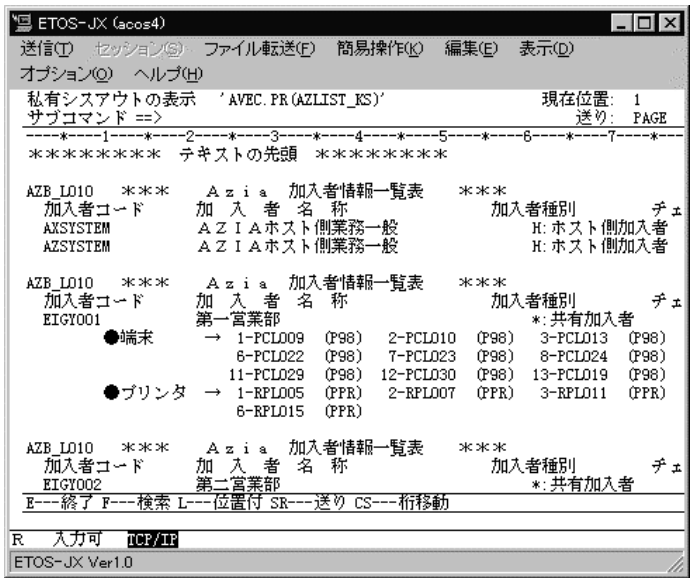
```
=================================================================
\AZFSET
                    PLUGIN=AZTXCVAP
                    PLUGOPT=(ｵﾌﾟｼｮﾝ文字列)
                    PLUGPRM=入力ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ記述領域名
                    INFILE=(入力ﾌｧｲﾙ記述)
                    ：
                    以後 \AZFSET のﾊﾟﾗﾒｰﾀ記述と同様。
=================================================================
```

4.5　ＡＣＯＳの帳票情報をＰＣ／端末プリンタに印刷する

4.5.1　　ＡＣＯＳの業務帳票データをAzia'n Transferへ登録する

ＡＣＯＳの業務で印刷している帳票データ(例えば NIP:日本語ﾌﾟﾘﾝﾀや LP:ﾗｲﾝﾌﾟﾘﾝﾀから印刷している帳票)をパソコン／端末のプリンタに印刷するために一旦 Azia'n Transfer システムへ登録します。 Azia'n Transfer システムへのデータ登録には専用のＪＣＬ(“AZLSET”)を利用して登録します。

私有シスアウト(AVEC.PR)に ”AZLIST_KS” という名前で存在する帳票ファイルを入力にして加入者 ”KAIKATSU2” の　帳票 “AZLIST_K” へ格納します。



－　入力帳票情報

```
000010    \AZLSET
000020              INFILE=(AVEC.PR    SHARE=DIR SUBFILE=AZLIST_KS )
000030              LISTID=AZLIST_K    AKSCD=KAIKATSU2  ATRMID=PCL001
000040              LISTNM='加入者情報一覧表' ;
```

－Azia'n transfer ｼｽﾃﾑへの登録用 JCL－

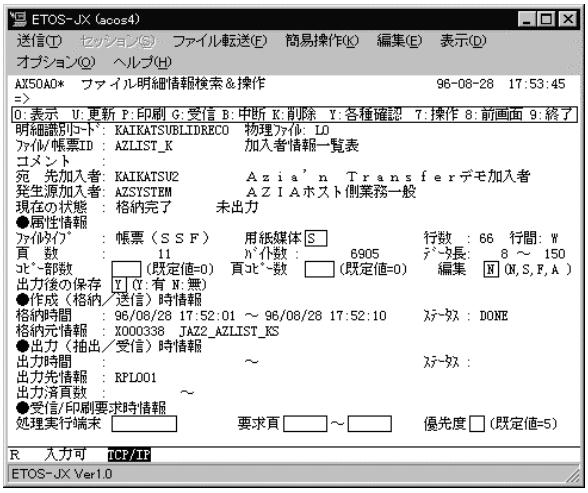
入力データには **Azia'n transfer** システムのサービスプログラムである管理情報リストを使用しました。管理情報リスト**(“AZLIST”)**の利用方法はＪＣＬマクロの使用方法を参照して下さい。

4.5.2　　登録した帳票情報を印刷する

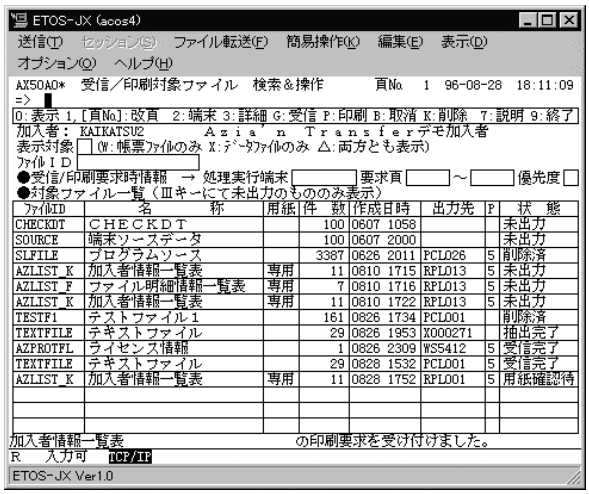
「 Azia'n Transfer Menu」から受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示されます。次に「番号==>」に”P”と入力し、印刷したい帳票明細にカーソルを位置づけて実行キーを押すと「…　印刷要求を受け付けました」というメッセージが返され状態が「用紙確認待ち」となります。次に用紙確認として「番号==>」に”Y”と入力し、印刷したい帳票明細にカーソルを位置づけて実行キーを押すと印刷が始まります。

尚、印刷中の状態は基本的に「未出力」→「用紙確認待ち」→「印刷準備中」→「印刷中」→「印刷完了」の順番で状態が変化します。ここでは全行程を順番に行いましたがＪＣＬの処理終了と同時に印刷を開始することも出来ます。

1．帳票データの格納完了状態



2．帳票データの詳細情報



3．印刷要求指示後の画面

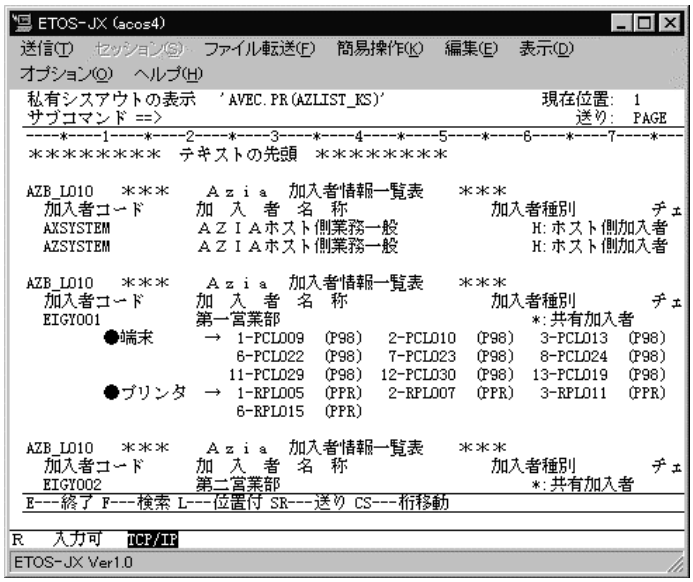
4．印刷完了後の画面

4.6　ＡＣＯＳの帳票情報をＰＣ／端末画面から検索する

4.6.1　　ＡＣＯＳの業務帳票データをAzia'n Transferへ登録する

ＡＣＯＳの業務で印刷している帳票データ(例えば NIP:日本語ﾌﾟﾘﾝﾀや LP:ﾗｲﾝﾌﾟﾘﾝﾀから印刷している帳票)をパソコン／端末のプリンタに印刷するために一旦 Azia'n Transfer システムへ登録します。 Azia'n Transfer システムへのデータ登録には専用のＪＣＬ(“AZLSET”)を利用して登録します。基本的には印刷する場合と同じです。

私有シスアウト(AVEC.PR)に ”AZLIST_KS” という名前で存在する帳票ファイルを入力にして加入者 ”KAIKATSU2” の　帳票 “AZLIST_K” へ格納します。



－　入力帳票情報

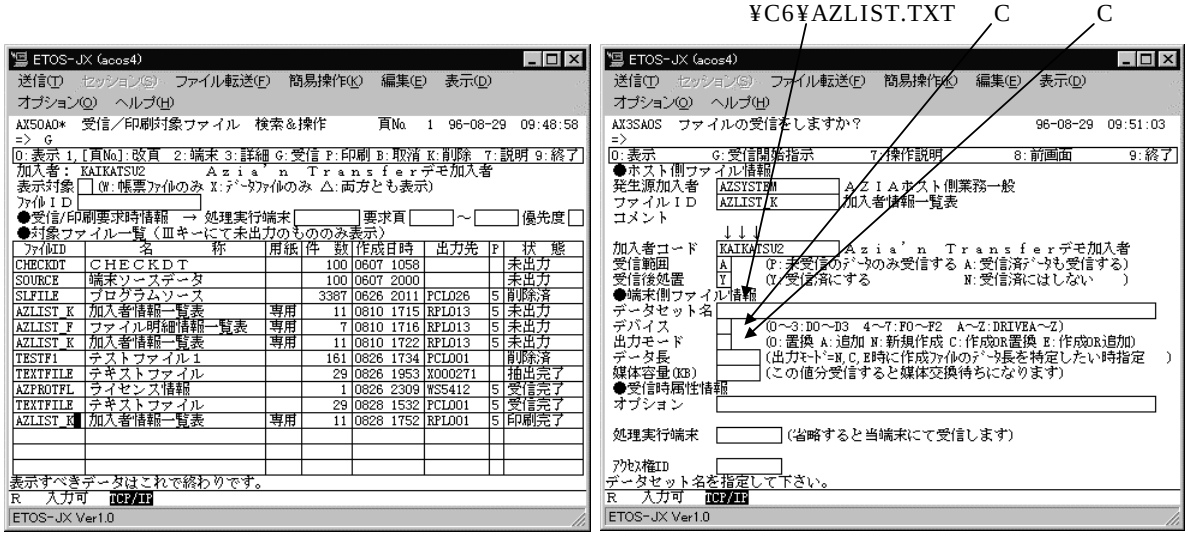
```
000010    \AZLSET
000020              INFILE=(AVEC.PR    SHARE=DIR SUBFILE=AZLIST_KS )
000030              LISTID=AZLIST_K    AKSCD=KAIKATSU2  ATRMID=PCL001
000040              LISTNM='加入者情報一覧表' ;
```

－Azia'n transfer ｼｽﾃﾑへの登録用 JCL－

入力データには **Azia'n transfer** システムのサービスプログラムである管理情報リストを使用しました。管理情報リスト**(“AZLIST”)**の利用方法は後で説明しています。

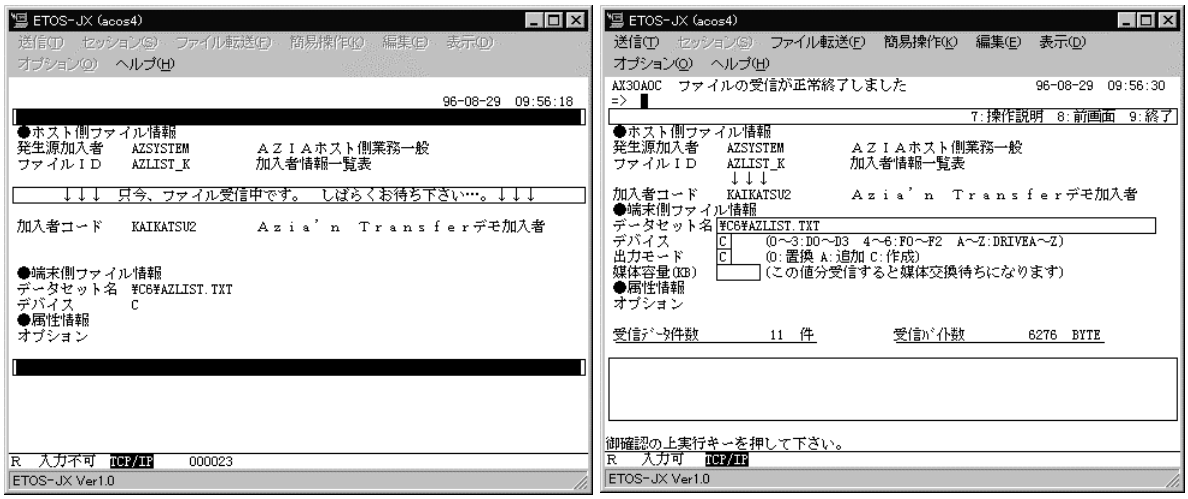
4.6.2　　登録した帳票情報を受信する

「 Azia'n Transfer Menu」から受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示されます。次に「番号==>」に”G”と入力し、受信したい帳票明細にカーソルを位置づけて実行キーを押すと「上記ファイル受信を開始しますか？　Ｙ／Ｎ」を聞いてきますので必要項目に値を設定した後”Ｙ”を入力すると受信が始まります。



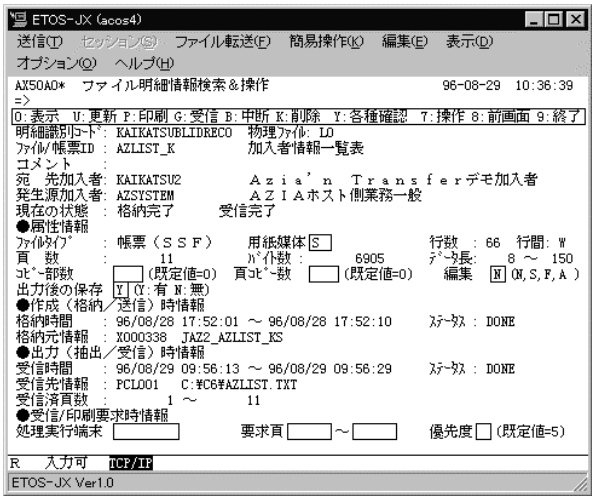
4.6.3　　帳票情報受信中の画面とその確認

帳票情報の受信処理中は「只今、ファイル受信中です。しばらくお待ち下さい。」というメッセージが表示されます。このとき画面下中央に転送件数が表示されますので受信件数の目安にして下さい。受信処理が終了すると受信データ件数、受信バイト数が表示されますので確認した後、実行キーを押下すると初期メニュー「 Azia'n Transfer Menu」に戻ります。



初期メニューから「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示され先程受信した帳票情報の状態が確認できます。更に詳細な情報が必要な場合には「==>」にカーソルを合わせて”3”を入力し、続いて該当する明細にカーソルを合わせます。この状態で実行キーを押すと「ファイル明細情報検索＆操作」が表示されます。

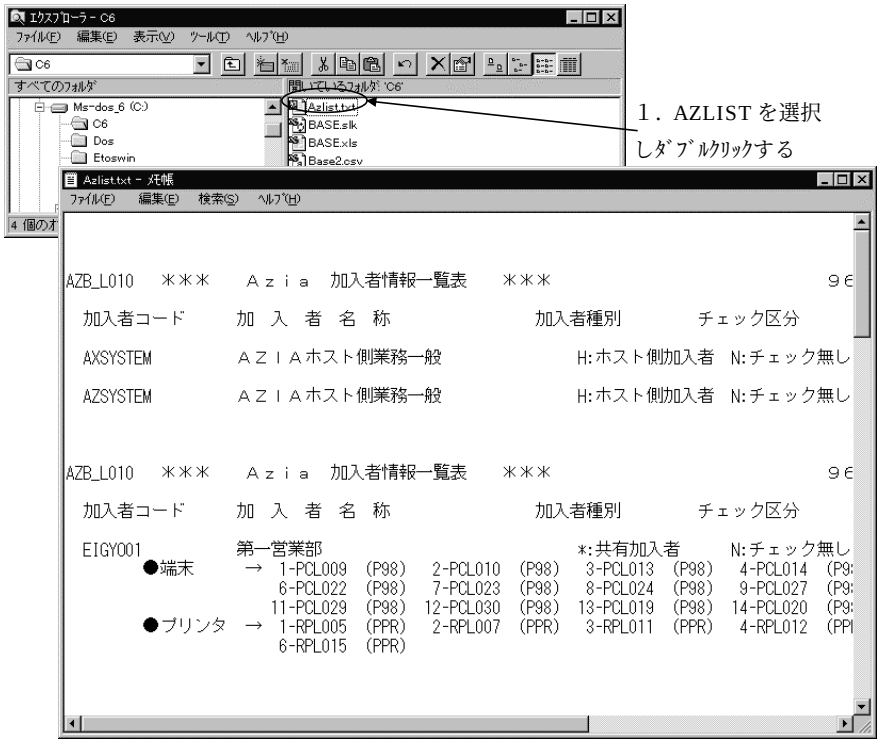
３．受信／印刷対象ﾌｧｲﾙ　検索＆操作画面



４．ﾌｧｲﾙ明細情報検索＆操作

4.6.4　受信した情報をメモ帳やワードパット，ライトで開く

受信した情報をメモ帳やワードパット，ライト等で見てみましょう。



5　応用

Azia'n Transferには、基本操作を簡易化するためのさまざまな機能や、ＡＣＯＳとの連携を考慮した機能がいくつか用意されています。これを使えば、Azia'n Transferを一切知らない人から上級者まで段階に応じて簡単に且つ様々な要望に応えることができます。

5.1　アイコンをクリックするだけで送受信処理を行う

ＥＴＯＳの簡易操作機能を用いてオンライン接続から本システムのファイル転送の実行、そして終了後のオンラインからの切断に至る一連の作業をアイコンをクリックするだけで行うことが出来ます。従って定型的な業務に用いると効果的といえます。

5.1.1　　コマンドファイルの作成

コマンドファイルとは、簡易操作の手順を記述したファイルのことで、自動実行したい処理１つにつき１個のファイル（スクリプト）を作成します。

このスクリプト作成に際してはメモ帳などを利用して登録します。また、名前の登録にも規則性が有り「E52CMD」＋任意の２文字（簡易操作実行用 ETOS ﾘｿｰｽ作成時に使用します）の名前で、 ”\WNETOSﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ” の下に拡張子を付けない名前で登録します。

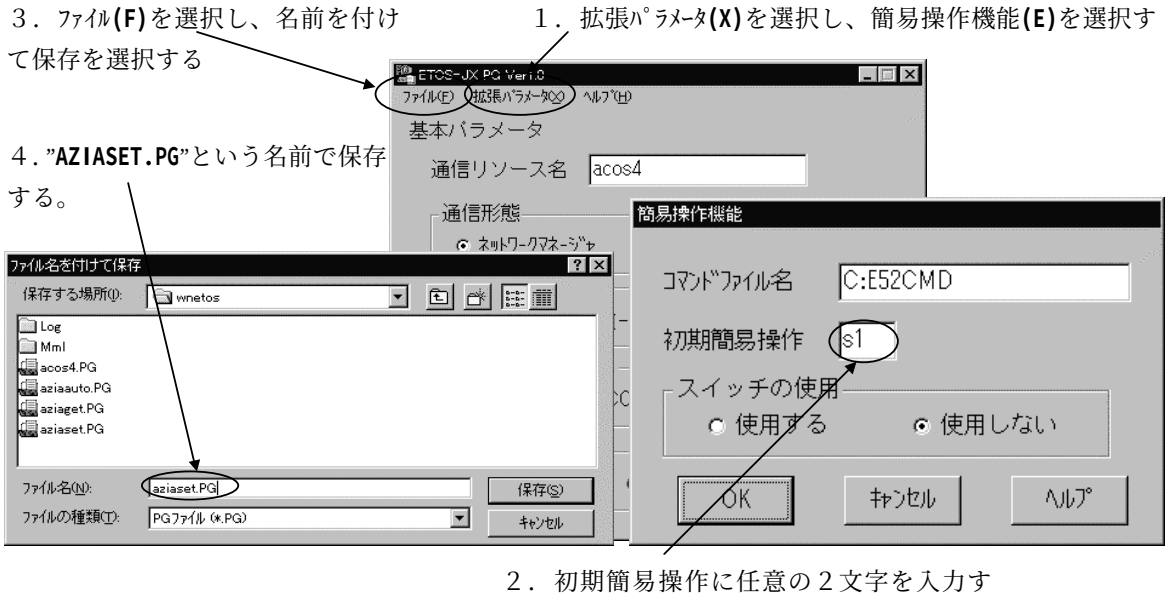
－Windows配下のETOSによる簡易操作実行例－

このｽｸﾘﾌﾟﾄは VIS2 ｵﾝﾗｲﾝに接続し、Azia'n Transfer ｼｽﾃﾑにﾛｸﾞｲﾝした後、ﾌｧｲﾙ送信画面を表示し、“KAIKATSU2” の加入者, ”TESTF1” というﾌｧｲﾙに向けて ”C” ﾄﾞﾗｲﾌﾞの ”\C6” ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘの下にある “TESTF1.TXT”というﾌｧｲﾙをＡＣＯＳに向けて送信します。

送信完了後 Azia'n Transfer ｼｽﾃﾑからﾛｸﾞｱｳﾄし、VIS2 ｵﾝﾗｲﾝを切断して終了します。

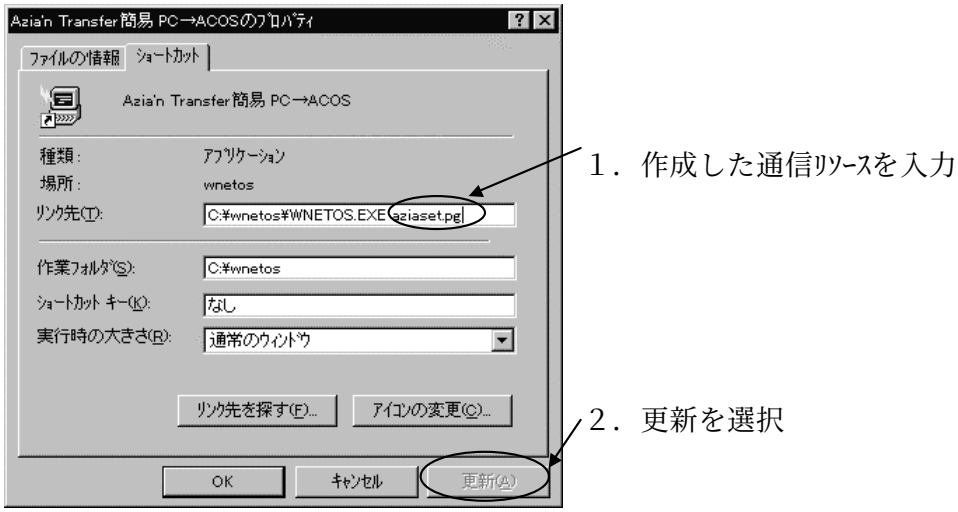
5.1.2　　簡易操作実行用ＥＴＯＳリソースの作成

5.1.1 で作成したスクリプトを実行するためには、専用の簡易操作実行用ＥＴＯＳ通信リソースが必要となります。通常は既にある通信リソースを複写し、初期簡易操作に先程作成した任意の２文字を入力して登録した方が簡単です。ここでは既にある“ACOS4.PG” という通信リソースを元に修正し “AZIASET.PG” という通信リソースを新たに作成しました。



5.1.3　　実行用アイコンの作成

実行用アイコンはまず実行プログラム(“WNETOS.EXE”)のショートカットを実行したい領域に作成します。続いてリンク先(T)に先程作成した通信リソースを記述して更新します。「例」 C:\wnetos\WNETOS.EXE aziaset.pg」



5.1.4　　アイコンをクリックして送受信処理を行う

それでは実際に、今登録しましたアイコンを使ってデータの送信処理を実行してみましょう。簡易操作処理の実行中には画面下に「自動実行中」というメッセージが表示されます。

この簡易操作の処理実行中に次のメッセージが通知されることがあります。これはコマンドファイル（スクリプト）上に誤りがある場合に表示されます。この場合には簡易操作処理は強制終了されますので、速やかにオンライン処理を終了させ、コマンドファイル（スクリプト）の修正を行って下さい。

ｺﾏﾝﾄﾞﾌｧｲﾙ(ｽｸﾘﾌﾟﾄ)不正によるｴﾗｰ通知の一例

POINT <コマンドファイル（スクリプト）>

コマンドファイル（スクリプト）の詳細な記述方法や規則、ファイルの作り方などはＥＴＯＳユーザーズマニュアルの簡易操作の章に記載されていますので、そちらをご覧ください。ここでは簡単な送信、受信、自動送受信画面表示の例を挙げています。

☺ **送信の簡易操作スクリプト記述例**

E52cmds1 - メモ帳

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) ヘルプ(H)

```
/MOD :N
/PUT :¥CON VIS2:ET::
/PUT ::ED::
/PUT ::CL/LI AZAP:ET::
/PUT ::CL/FO AX30AL:ET::
/PUT        :S:HTKAIKATSU2:HTTESTF1:HT:HT:HT:HT¥c6¥testf1.txt:HTCNKCNV=Y,CHK=5-
0:HT:ET::
/PUT :Y:ET::
/PUT : ::
/PUT ::CL/LO:ET::
/PUT ::CL¥DIS:ET::
/PUT ::ED::
/END :A
```

☺ 受信の簡易操作スクリプト記述例

E52cmdg1 - メモ帳

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) ヘルプ(H)

```
/MOD :N
/PUT :¥CON VIS2:ET::
/PUT ::ED::
/PUT ::CL/LI AZAP:ET::
/PUT ::CL/FO AX31AL:ET::
/PUT         :G:HT:HTSMF_CPU:HT:HT:HT:HT¥c6¥smfdump.csv:HTCC:HT:HTKCNV=Y,CHK=5-
0:HT:ET::
/PUT :Y:ET::
/PUT : ::
/PUT ::CL/LO:ET::
/PUT ::CL¥DIS:ET::
/PUT ::ED::
/END :A
```

☺ 受動送受信画面表示までの簡易操作スクリプト記述例

E52cmdsr - メモ帳

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) ヘルプ(H)

```
/MOD :N
/PUT :¥CON VIS2:ET::
/PUT ::ED::
/PUT ::CL/LI AZAP:ET::
/PUT ::CL/FO AX32AL:ET::
/PUT ::ET::
/PUT :Y:ET::
/END :S
```

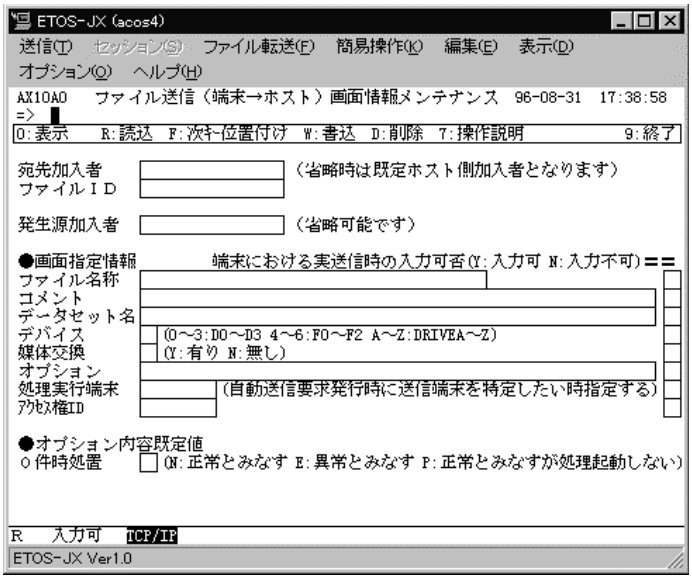
5.2　メニューから選択するだけで送信処理を行う

通常、送信や受信を行う場合に加入者やファイルＩＤ，データセット名をその都度入力しなければならず、定型的な業務として利用する場合に毎回のオペレーションが大変です。

Azia'n Transfer ではこの様な面倒な入力作業を簡素化するため、予め入力情報をカタログ情報として登録しておき、今まで入力しなければならなかった面倒なオペレーション作業を、メニュー画面から選択しただけで送信を行う様にすることができます。

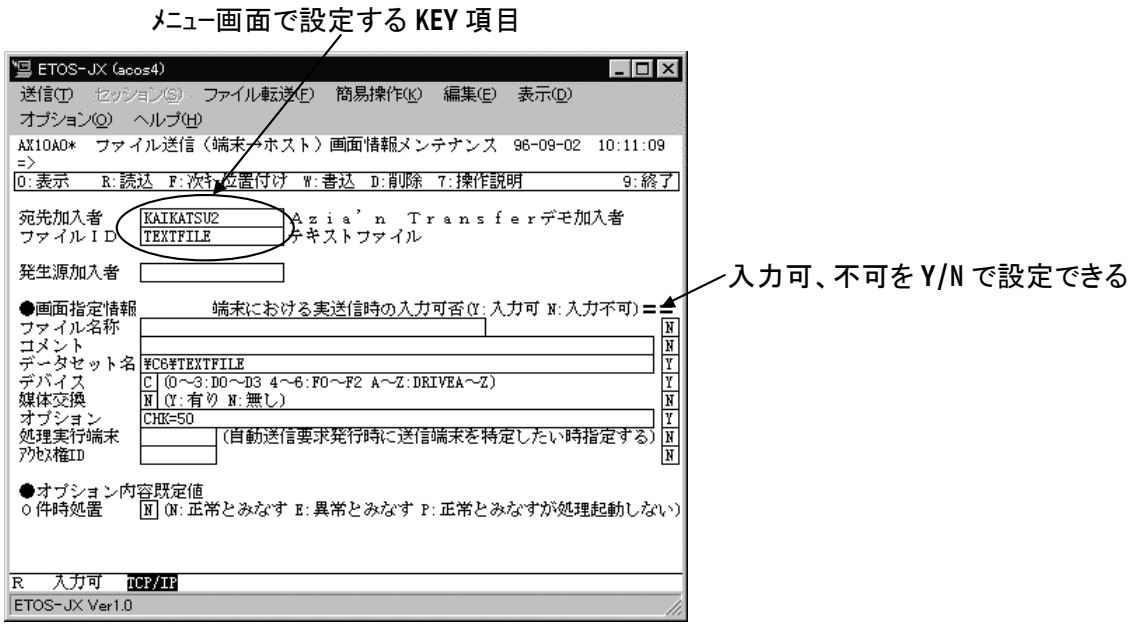
5.2.1　　ファイル送信時画面情報を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」からファイル送信時画面情報を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて"82"を入力し実行キーを押すと「ファイル送信（端末→ホスト）画面情報メンテナンス画面」が表示されます。



5.2.2　　ファイル送信画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する

ファイル送信画面で実際に送信している時と同じ内容を入力します。入力後、内容を登録するためカーソルを「==>」に位置づけて”W”を入力し、実行キーを押すとカタログ情報として登録されます。画面下に「ファイル情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

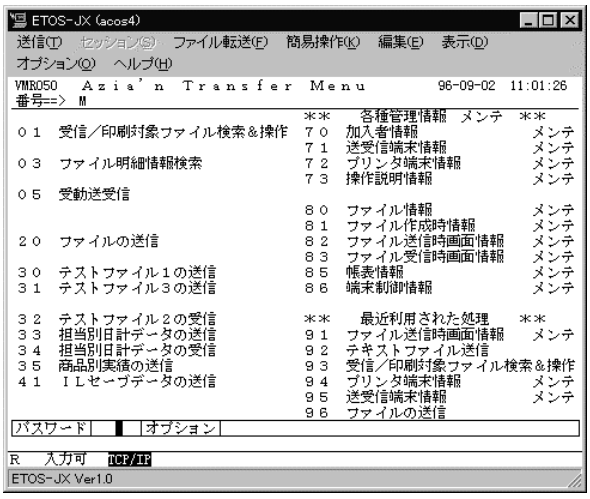


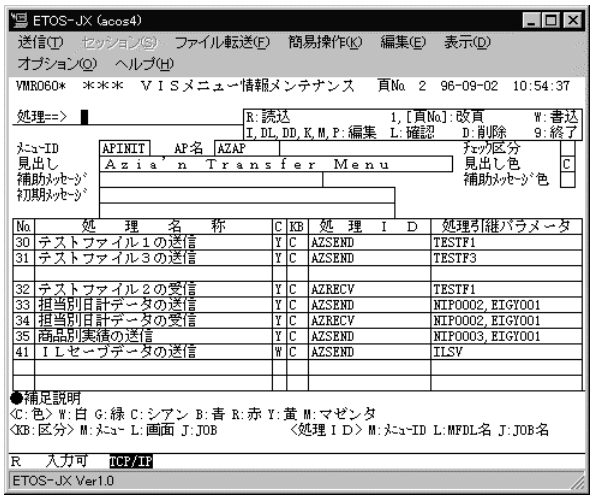
この画面でのキー項目は「宛先加入者」と「ファイルＩＤ」です。メニュー画面情報メンテナンスへの登録では、このキー項目を設定したファイル送信画面情報（カタログ）を表示しますので忘れないで下さい。

また、ファイル送信画面情報メンテナンスでは必要以上の入力をさせないように、入力可，入力不可の項目を設定することが出来ます。このため定型的な業務でも、まれに出力先の変更などを伴う様な場合を想定し、データセット名やデバイスなどは入力可能項目にすると良いでしょう。

5.2.3　　メニュー画面情報メンテナンス画面を表示する

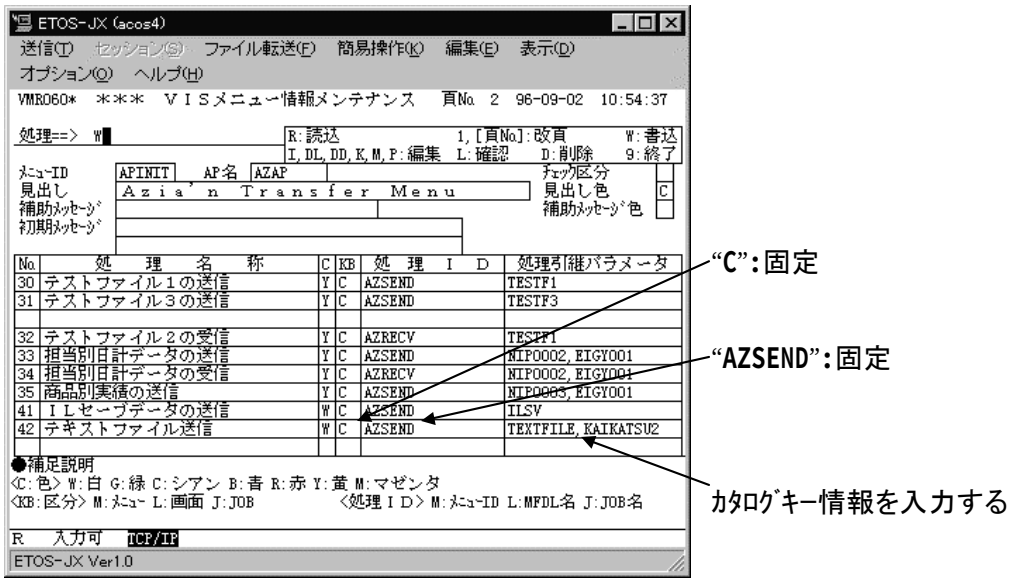
ここでは「Azia'n Transfer Menu」に先程作成したカタログ情報を呼び出すメニュー項目を登録してみましょう。「Azia'n Transfer Menu」の「番号==>」に"M"と入力し、パスワードを入力して実行キーを押すとメニュー画面情報メンテナンス画面が表示されます。※パスワードの値はシステム管理者にお問い合わせ下さい。





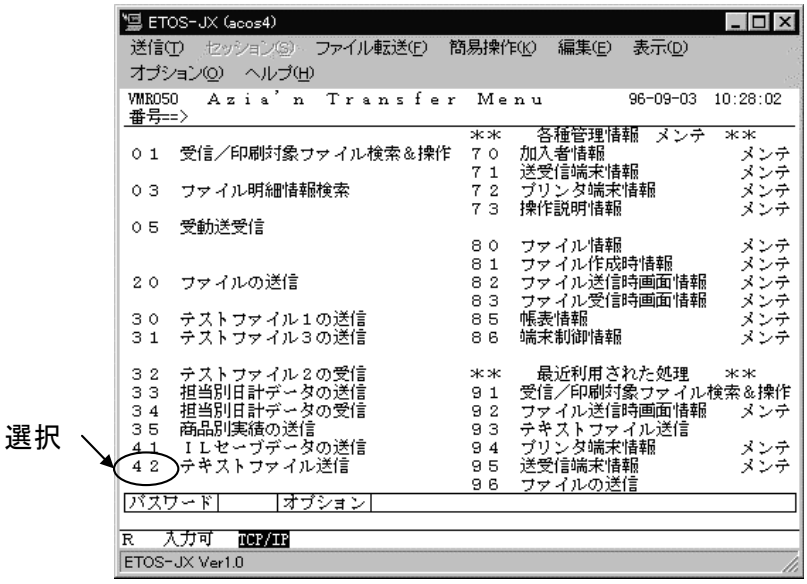
5.2.4　　メニュー画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する

メニューNo.42 番を新たに作成します。ここで、先程登録したカタログ情報と関連付けるために引継ぎパラメータにキー情報を入力します。引継ぎパラメータの記述方法は「ファイルＩＤ，宛先加入者」と入力します。情報の入力後、「=>」の位置で"W"を入力して実行を押します。画面下に「更新が正常終了しました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

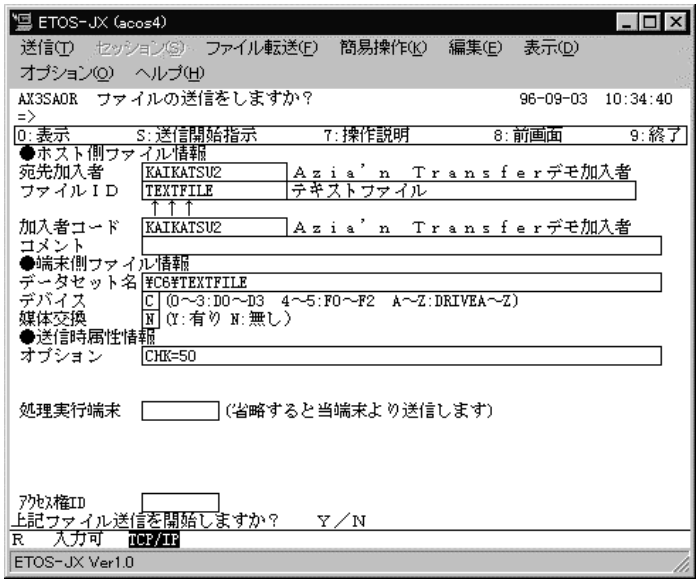


5.2.5　　実際にメニューから選択して送信処理を行う

それでは実際に、今まで登録した内容でメニューから選択して送信処理を行ってみましょう。ここではメニューNo.42 番に「テキストファイル送信」というメニューで登録しましたので”42”を選択して実行キーを押します。



すると予めカタログ情報として登録しておいた内容が表示され、送信開始の有無を聞いてきます。実際に送信処理を行う場合には指示に従い送信して下さい。送信しない場合には”N”を選択すると「Azia'n Transfer Menu」に戻ります。



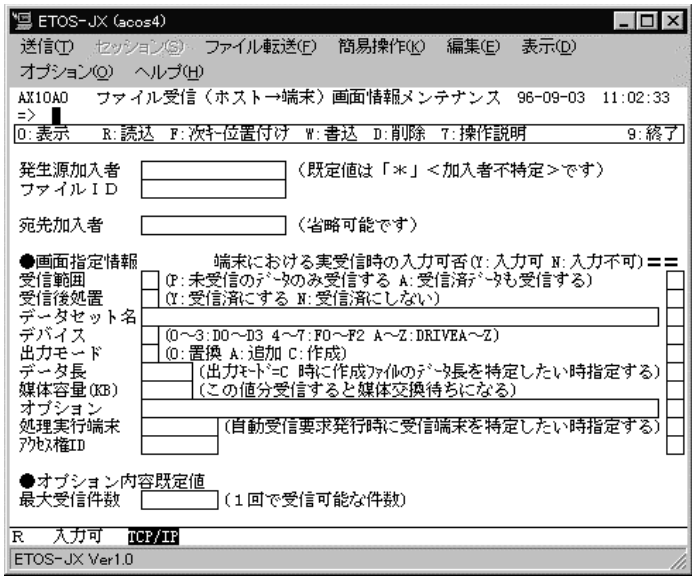
5.3　メニューから選択するだけで受信処理を行う

通常、送信や受信を行う場合に加入者やファイルＩＤ，データセット名，をその都度入力しなければならず、定型的な業務として利用する場合に毎回のオペレーションが大変です。

Azia'n Transfer ではこの様な面倒な入力作業を簡素化するため、予め入力情報をカタログ情報として登録しておき、今まで入力しなければならなかった面倒なオペレーション作業を、メニュー画面から選択しただけで受信を行う様にすることができます。

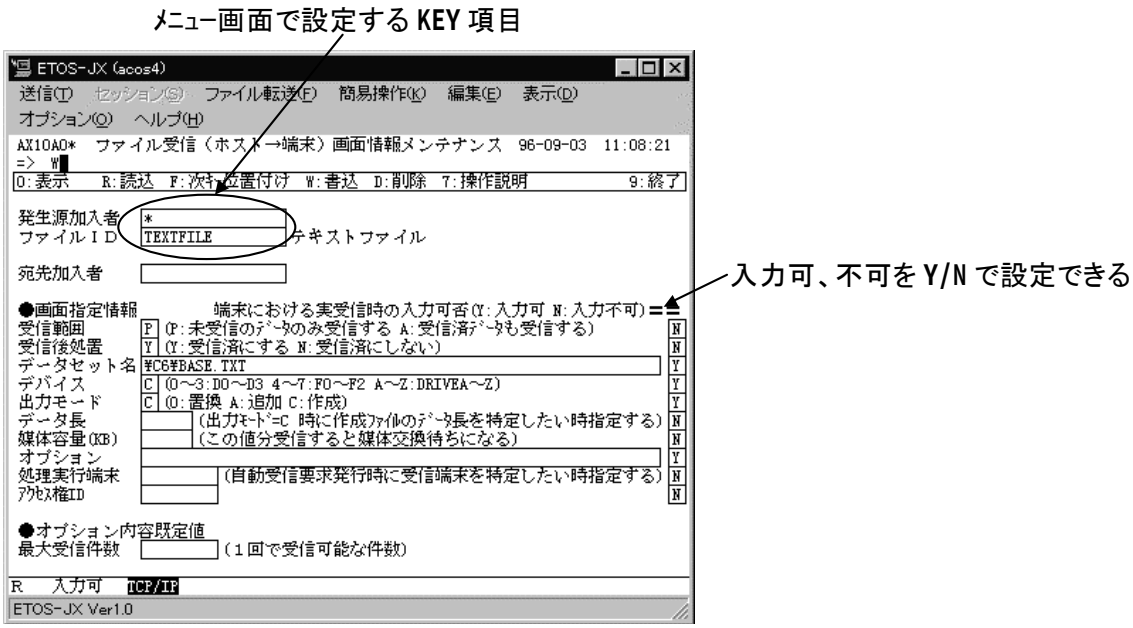
5.3.1　　ファイル受信時画面情報を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」からファイル受信時画面情報を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”83”を入力し実行キーを押すと「ファイル受信（ホスト→端末）画面情報メンテナンス画面」が表示されます。



5.3.2　　ファイル受信画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する

ファイル受信画面で実際に受信している時と同じ内容を入力します。入力後、内容を登録するためカーソルを「==>」に位置づけて"W"を入力し、実行キーを押すとカタログ情報として登録されます。画面下に「ファイル情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

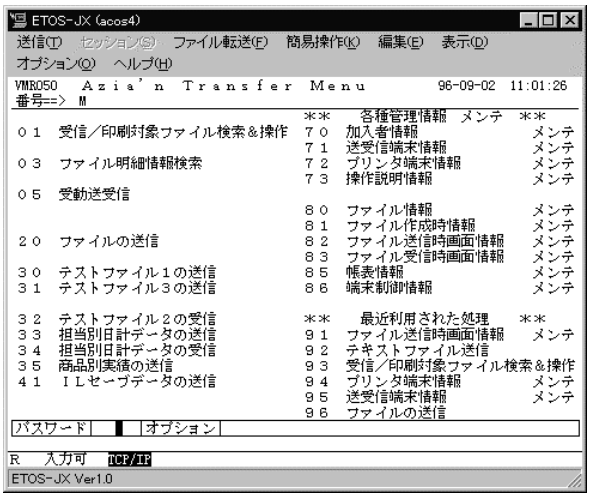


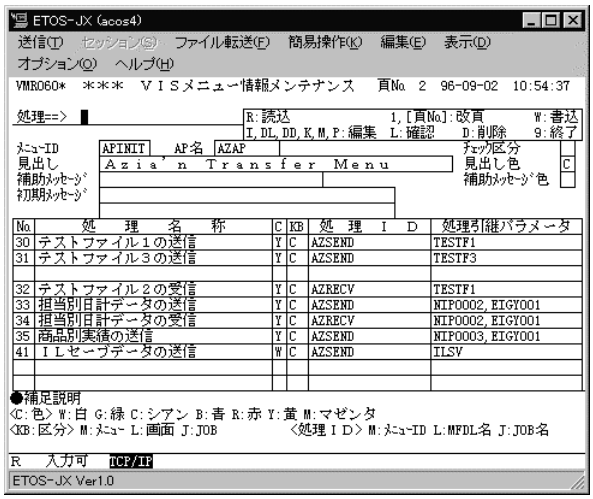
この画面でのキー項目は「発生源加入者」と「ファイルＩＤ」です。メニュー画面情報メンテナンスへの登録では、このキー項目を設定したファイル受信画面情報（カタログ）を表示しますので忘れないで下さい。

また、ファイル受信画面情報メンテナンスでは必要以上の入力をさせないように、入力可，入力不可の項目を設定することが出来ます。このため定型的な業務でも、まれに出力先の変更などを伴う様な場合を想定し、データセット名やデバイスなどは入力可能項目にすると良いでしょう。

5.3.3　　メニュー画面情報メンテナンス画面を表示する

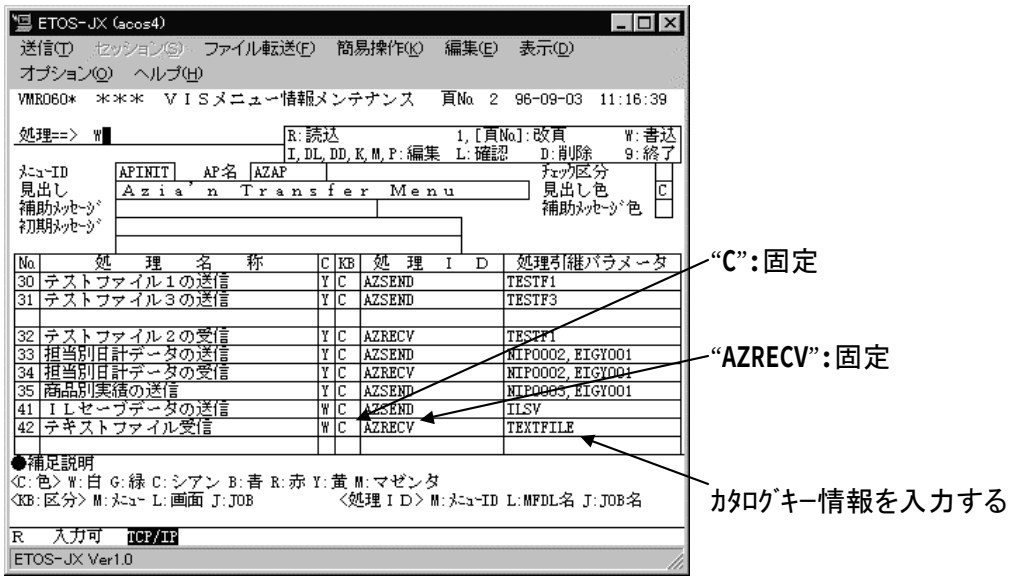
ここでは「Azia'n Transfer Menu」に先程作成したカタログ情報を呼び出すメニュー項目を登録してみましょう。「Azia'n Transfer Menu」の「番号==>」に"M"と入力し、パスワードを入力して実行キーを押すとメニュー画面情報メンテナンス画面が表示されます。※パスワードの値はシステム管理者にお問い合わせ下さい。





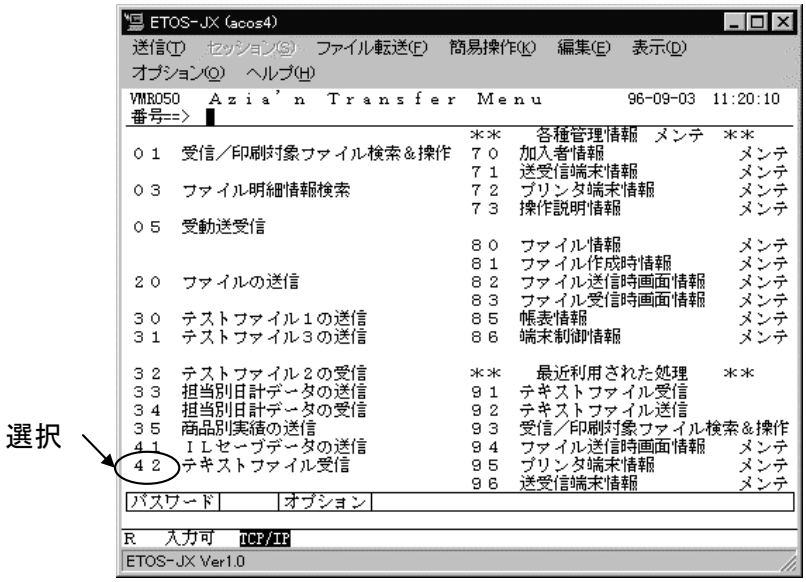
5.3.4　　メニュー画面情報メンテナンス画面からカタログ情報を登録する

メニューNo.42 番を新たに作成します。ここで、先程登録したカタログ情報と関連付けるために引継ぎパラメータにキー情報を入力します。引継ぎパラメータの記述方法は「ファイルＩＤ，発生源加入者」と入力します。情報の入力後、「=>」の位置で"W"を入力して実行キーを押します。画面下に「更新が正常終了しました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

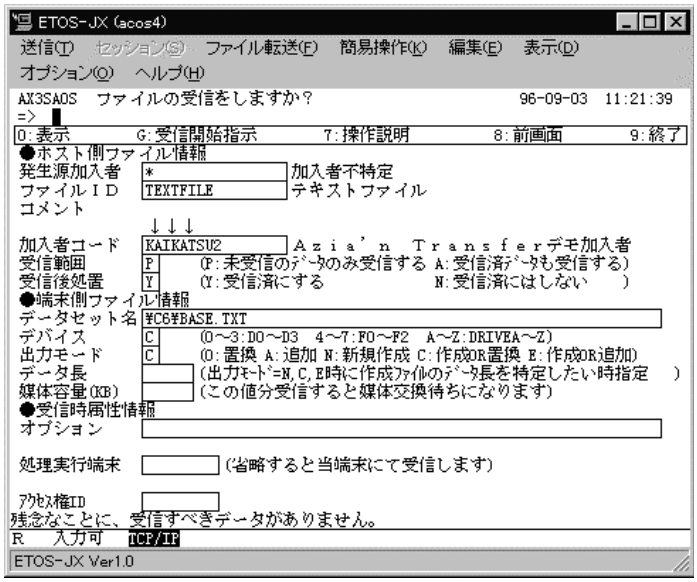


5.3.5　　実際にメニューから選択して受信処理を行う

それでは実際に、今まで登録した内容でメニューから選択して受信処理を行ってみましょう。ここではメニューNo.42 番に「テキストファイル受信」というメニューで登録しましたので”42”を選択して実行キーを押します。



予めカタログ情報として登録しておいた内容が表示され、受信開始の有無を聞いてきます。実際に受信処理を行う場合には指示に従い送信して下さい。受信しない場合には”N”を選択すると「Azia'n Transfer Menu」に戻ります。

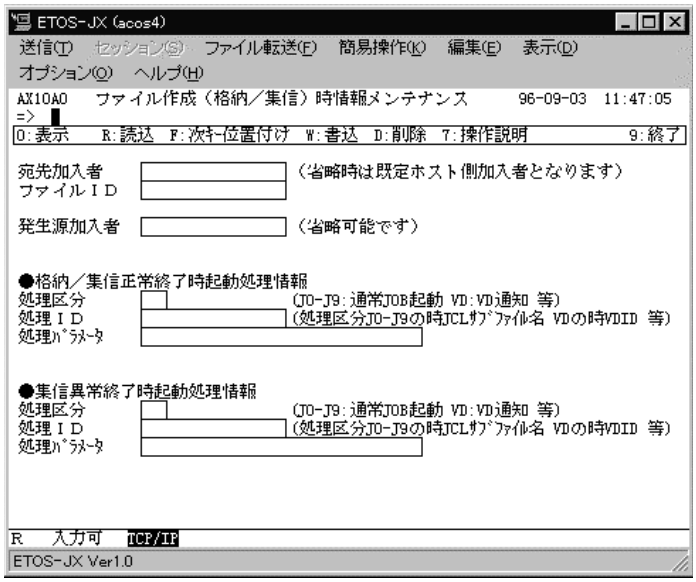


5.4　ファイル送信完了と同時にバッチ処理を起動する

Azia'n Transfer では、ホスト業務処理との連携を意識してＰＣ又は端末からのデータ集信と同時に、ホスト側のバッチ処理を起動する機能があります。この場合でも、集信処理の正常終了時に起動する処理、異常終了時に起動する処理と、業務処理の運用を考慮してシステムに組み込むと、より効果的なサービスを得る事が出来ます。

5.4.1　　ファイル作成時情報を表示する。

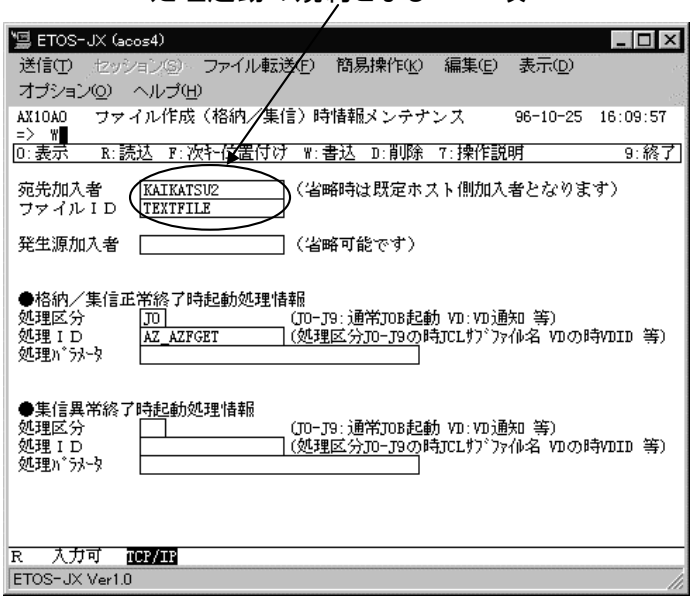
「 Azia'n Transfer Menu」からファイル作成時情報を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて"81"を入力し実行キーを押すと「ファイル作成（格納→集信）時情報メンテナンス画面」が表示されます。



5.4.2　　ファイル作成時情報メンテナンス画面から起動処理情報を登録する

ファイル送信処理後に起動する起動処理情報を入力します。入力後、内容を登録するためカーソルを「==>」に位置づけて"W"を入力し、実行キーを押すと起動処理情報として登録されます。画面下に「ファイル情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

処理起動の規約となる KEY 項



この画面でのキー項目は「宛先加入者」と「ファイルＩＤ」です。送信処理の完了後、このキー項目を設定したファイル作成時情報（カタログ）を元に次のアクションを行います。

また、ファイル作成時情報メンテナンスでは集信正常終了時以外に、集信異常終了時にも次のアクションを起こすことが出来ます。このため業務処理側で異常終了通知や強制返送などを行うと良いでしょう。

尚、Azia'n Transfer では起動後の処理（ＪＯＢ）監視は行っておりません。処理の監視が必要な場合には、「AVECS システム」の「VIS ジョブ管理システム」を併用してお使い頂きますと、より効果的なサービスをご提供致します。

処理区分：システムセットアップ時に予め既定値情報で割り当てられているライブラリをＪ０～Ｊ９の番号で指示します。「VIS ジョブ管理システム」を併用する場合にはＶＪと指示します。

処理ＩＤ：ＪＣＬ名又はＪＯＢＩＤを指示します。

POINT <ＡＶＥＣＳシステム>

☺　　ＡＶＥＣＳ　ＶＩＳジョブ管理システムとは

このＶＩＳＪＯＢ管理システムとは、システム全体のジョブ監視と小規模システム～大規模システムにおけるシステム構築時の負担（工数）軽減にあります。

従来、ジョブの監視はセンターコンソール又はサブコンソールのみで行われており、実行されているジョブの所在が担当者以外でなければわからないという欠点を持っていました。また、ある処理から異なる別の処理を起動させるシステムを構築した場合、システム構築後に変更が生じるとアプリケーションの修正が付いて回りました。

このようにシステム全体のジョブ監視機能を充実させ導入の容易性や変更を容易に行えるシステム。それがこのＶＩＳＪＯＢ管理システムです。

ＶＩＳＪＯＢ管理ではこのほかにもオンラインＶＩＳからのジョブ起動のサポートや、起動元から起動先へのパラメータ引継ぎインタ・フェースの提供など、様々な業務インタ・フェースをご提供しています。

Ⅰ．マネージャーの精神的負担の軽減

１．導入～保守が容易である（導入・メンテナンス工数の削減）。

２．実行履歴・処理時間などアプリケーション全体での監視機能を充実。

Ⅱ．開発担当者・オペレータの作業負担の軽減

１．実行状況及び結果の把握が容易になる（画面からの確認）。

２．ＶＩＳからのバッチＪＯＢ起動が容易に且つ汎用的に利用することが可能。

３．バッチ，ＶＩＳバッチ，Ｏ／Ｌ，ＡＶＥＣＳ内の他システム間，それぞれの充実したインタフェース。

４．異常終了などによるトラブル対応での再実行が迅速に行える（リカバリー・レスポンスの向上）。

5.5　ファイル毎に状態を検索する

今までご覧頂いた転送や印刷状況の確認には「受信／印刷対象ファイル検索＆操作」を見てまいりました。これは基本的に加入者単位での表示となります。ここではシステムの管理上からファイル単位での検索を実現し、必要なファイルがどの加入者に散在しているのかを検索でき、状態に対する対処がどこからでも対処することが出来ます。（受信／印刷対象ファイル検索＆操作画面でも加入者がわかる管理者であれば表示して対処することが出来ます）

5.5.1　　ファイル別明細状況検索画面を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」からファイル別明細状況検索画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”3”を入力し実行キーを押すと「ファイル別明細状況検索画面」が表示されます。

5.5.2　　ファイル別明細状況検索画面から状態を表示する

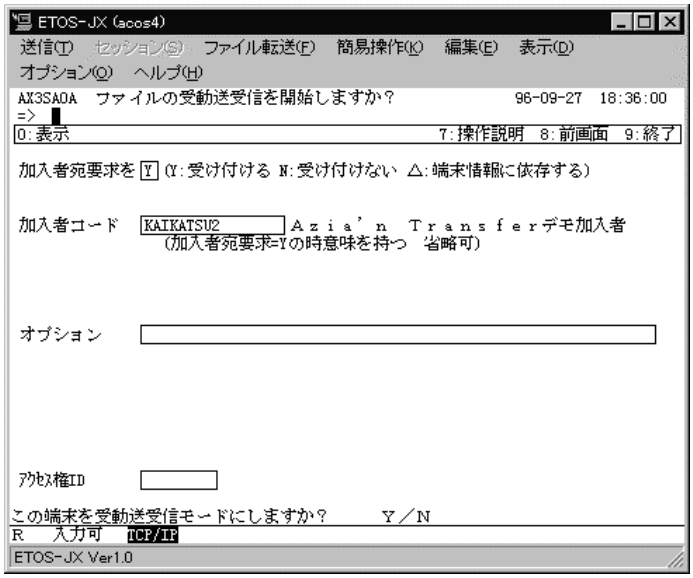
検索対象のファイルＩＤ又は帳票ＩＤを入力後、「=>」で”R”を入力後実行キーを押すと転送／印刷している情報を検索することが出来ます。また、宛先や発生源を入力して更に絞り込み、検索表示することが出来ます。

5.6　ホスト主導型での自動送受信

Azia'n Transfer の世界ではＡＣＯＳを使ったクライアント・サーバーシステムの構築のために、現在のホスト側に立つ情報部門の方々がＡＣＯＳをサーバーマシンとして利用して頂けるように（いわばサーバー管理者のために）様々な手段を用意しています。この手段を利用することによりＰＣやサーバーマシンの業務データ管理を容易に行うことが出来ます。それでは受動送受信モードを利用したホスト主導型の受動送受信をご紹介します。

5.6.1　　受動送受信画面を表示する

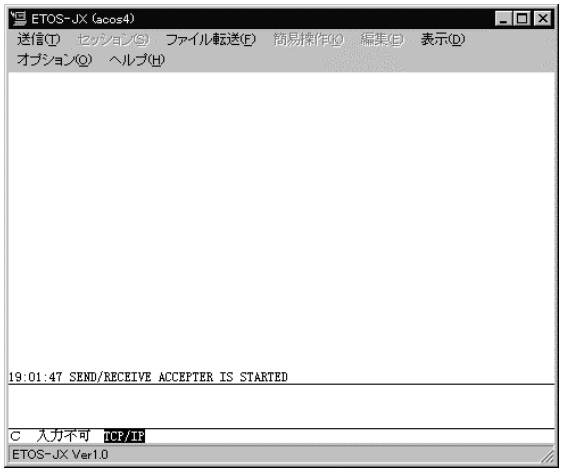
「 Azia'n Transfer Menu」から受動送受信画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”5”を入力し実行キーを押すと「受動送受信モード切り替え確認画面」が表示されます。



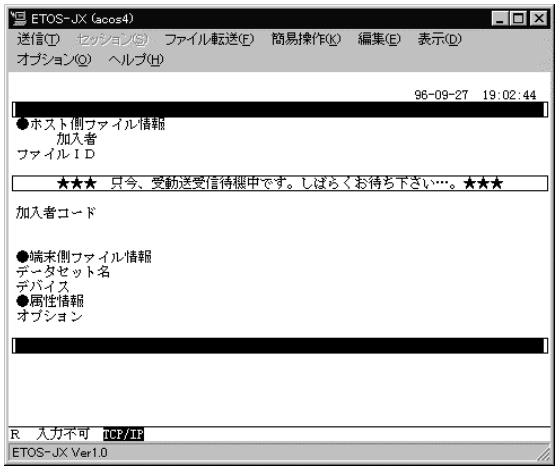
－　受動送受信モード切り替え確認画面

この「受動送受信モード切り替え確認画面」から”Y”を入力して実行キーを押すと次頁の「受動送受信画面１」が表示され、ホストからの指示待ちの状態となります。

尚、利用するエミュレータの種類によっては「受動送受信画面１」が利用できない場合があります。この場合には「受動送受信モード切り替え確認画面」のオプション項目に　'FORM'　と入力してから Y”を入力し、実行キーを押すと次頁の「受動送受信画面２」が表示され、ホストからの指示待ちの状態となります。※１，２両画面共に同等の機能を果たします。（「受動送受信画面１」が利用できない理由の１つとして、そのｴﾐｭﾚｰﾀ機能に動作ﾓｰﾄﾞの COMI-2(KB/PR) がｻﾎﾟｰﾄされていない場合が考えられます)



－受動送受信画面１－

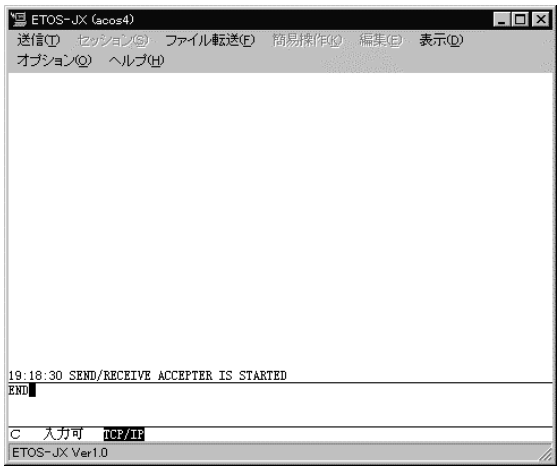


－受動送受信画面２

5.6.2　受動送受信画面を終了する

両受動送受信画面ではカーソルが表示されません。通常（終了させる以外）ではこの状態で自動送受信行為がホストからの指示により行われます。尚、終了させる場合には終了コマンドの発行が必要となります。このため “全消去”キー を入力してカーソルを表示してから終了コマンドを発行します。終了コマンドは 'END' と入力し、実行キーを押すと「 Azia'n Transfer Menu」に戻ります。

尚、「受動送受信画面２」の場合には“全消去”キーを２回押すと終了コマンドが入力出来るようになります。「受動送受信画面１」の場合には“全消去”キーを１回押すと終了コマンドが入力できるようになります。



－受動送受信画面１の終了－

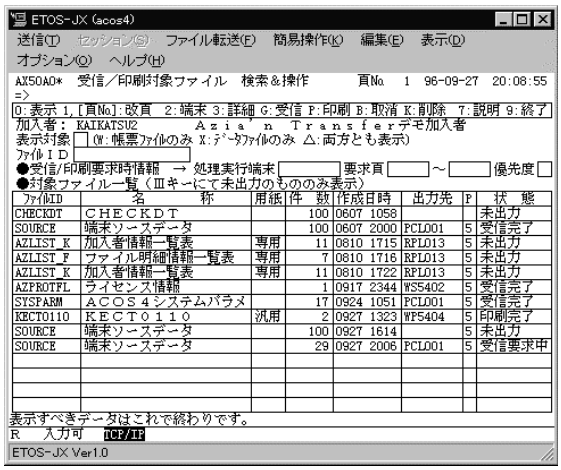
－受動送受信画面２の終了－

5.6.3　　ホストで作成されたデータを即、端末へ自動配信する(\AZFSET応用)

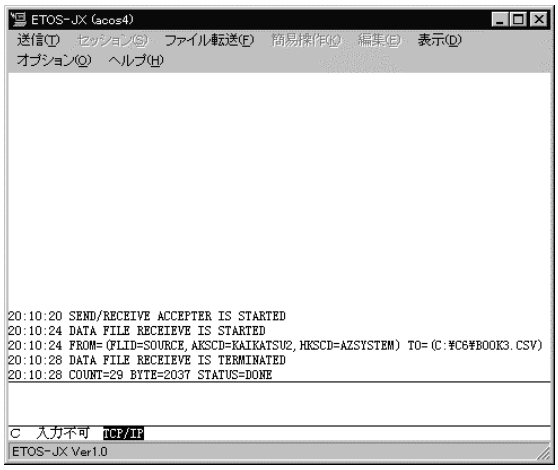
バッチ処理で作成されたデータを Azia'n Transfer システムに登録し、そのまま受動送受信モードを介してＰＣ端末及びサーバーマシンへ自動配信します。この自動配信するためには「4.4.1　ＡＣＯＳの業務データを Azia'n Transfer へ登録する」でご紹介した(“\AZFSET”)の登録ＪＣＬ例に次のパラメータを追加ことにより、Azia'n Transfer システムへの登録と同時に受動送受信モードの端末へ自動配信処理が開始されます。

```
000010    \AZFSET    ～   OUTREQ=YES   ;
```

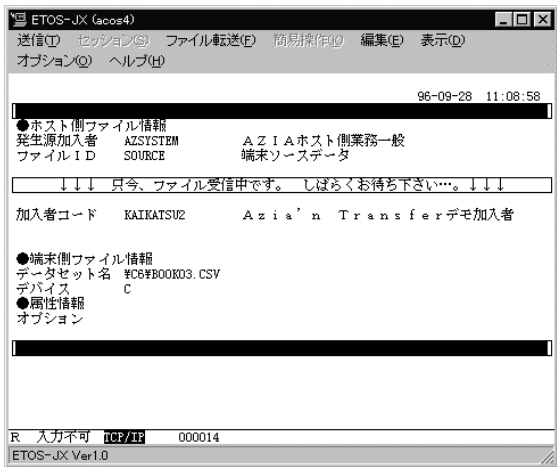
尚、受信端末が受動送受信モードへ切り替えられていない場合には、状態が「受信要求中」となり、配信先の端末(ＪＣＬで指定された“ATRMID”の端末)が受動送受信モードに切り替わるまで待機します。配信先の端末が受動送受信モードに切り替わると状態が「受信中」→「受信完了」へと変化します。



－受信要求中の画面



－受動送受信画面１の動作－



－受動送受信画面２の動作－

5.6.4　予めAzia'n Transferに登録したﾃﾞｰﾀに対しての自動配信要求(JCL)

この処理では事前にバッチ処理で作成され、Azia'n Transfer システムに既に登録されているデータに対してＪＣＬで配信要求指示を発行します。この要求を受けて受動送受信モードを介しＰＣ端末及びサーバーへの自動配信を行います。この自動配信をするためには「4.4.1　ＡＣＯＳの業務データを Azia'n Transfer へ登録する」でご紹介した(“\AZFSET”)の登録ＪＣＬにより、Azia'n Transfer への登録が完了しているデータ（基本的に状態が「未出力」のもの）を対象に、(“\AZSEND”)のＪＣＬで Azia'n Transfer システムへの配信要求指示を発行し、これを契機に受動送受信モードの端末へ自動配信処理を開始します。それでは配信要求を発行するＪＣＬ例を見てみましょう。

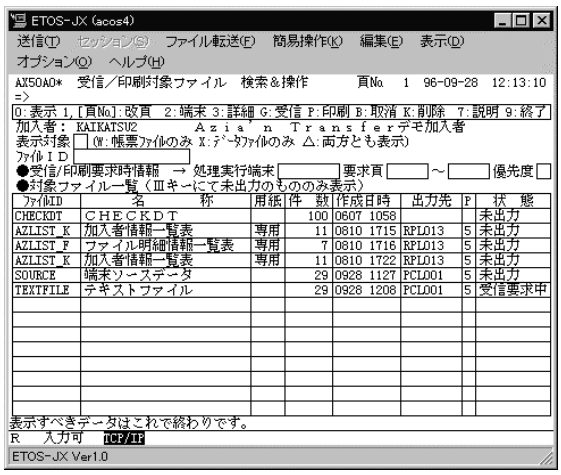
これは Azia'n Transfer システムの　加入者 ”KAIKATSU2”, ファイル “TEXTFILE” に格納されているデータに対して、端末 “PCL001” への自動配信要求を発行します。

```
000010    \AZSEND    FLID=TEXTFILE          AKSCD=KAIKATSU2
000020               RTRMID=PCL001          OPMD=N
000030               DSNM=/C6/BASE2.CSV     DV=C;
```

－**Azia'n transfer** ｼｽﾃﾑから受信端末への自動配信要求発行用 **JCL**－

尚、受信端末が受動送受信モードへ切り替えられていない場合には、状態が「受信要求中」となり、配信先の端末(ＪＣＬで指定された“ATRMID”の端末)が受動送受信モードに切り替わるまで待機します。配信先の端末が受動送受信モードに切り替わると状態が「受信中」→「受信完了」へと変化します。

－登録済みのデータ”TEXTFILE”



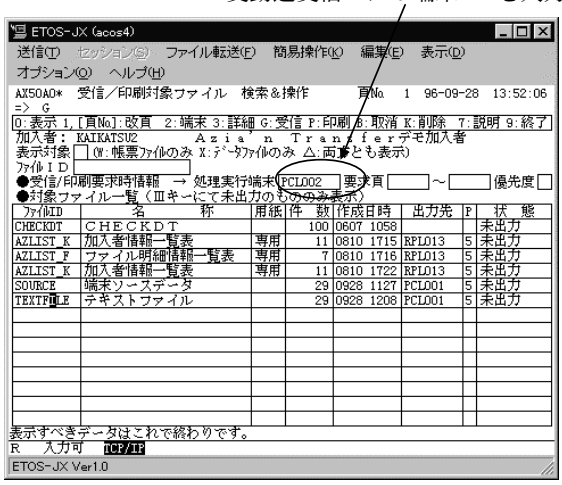
－配信要求後の状態

※受動送受信画面１，２の動作は 5.6.3 と同じです。

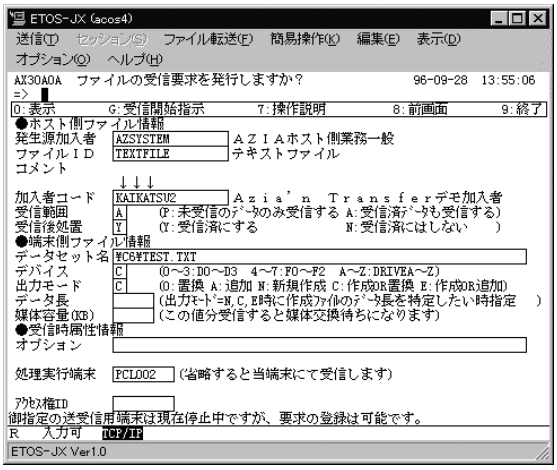
5.6.5　予めAzia'n Transferに登録したﾃﾞｰﾀに対しての自動配信要求(画面)

この処理では事前にバッチ処理で作成され、Azia'n Transfer システムに既に登録されているデータに対して画面から配信要求指示を発行します。この要求を受けて受動送受信モードを介しＰＣ端末及びサーバーへの自動配信を行います。この自動配信をするためには「4.4.2　テキストデータをパソコンに受信する」でご紹介したファイル受信確認画面の処理実行端末を入力することにより、選択したファイルを対象に画面からAzia'n Transfer システムへの配信要求指示を発行し、これを契機に受動送受信モードの端末へ自動配信処理を開始します。それでは配信要求を発行する画面例を見てみましょう。

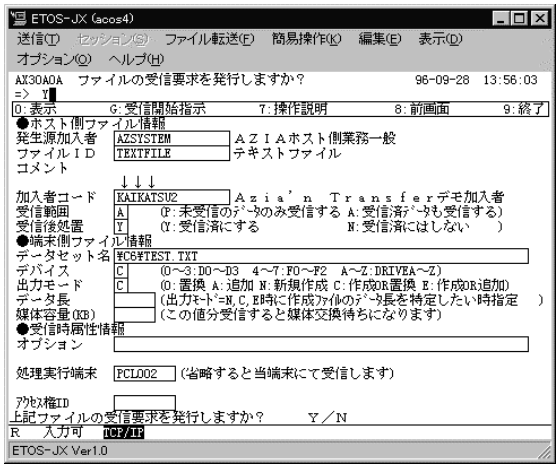
受動送受信ﾓｰﾄﾞの端末 ID を入力する



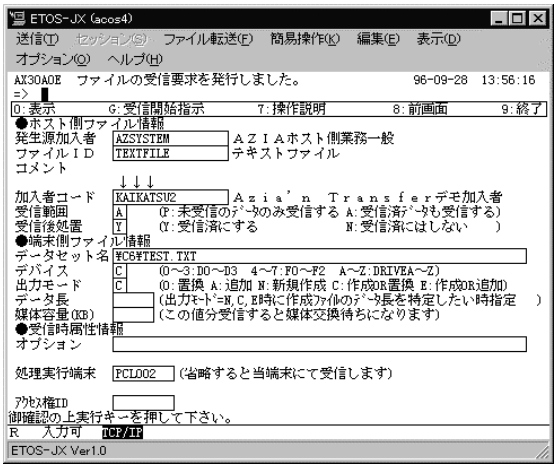
1.画面から処理実行端末を指示する



2.他端末での自動配信要求確



3.受信要求確認画面



4.受信要求確認後の画面

これは Azia'n Transfer システムの　加入者 ”KAIKATSU2”, ファイル “TEXTFILE” に格納されているデータに対して、端末 “PCL002” への自動配信要求を発行します。

尚、受信端末が受動送受信モードへ切り替えられていない場合には、状態が「受信要求中」となり、配信先の端末(ＪＣＬで指定された“ATRMID”の端末)が受動送受信モードに切り替わるまで待機します。配信先の端末が受動送受信モードに切り替わると状態が「受信中」→「受信完了」へと変化します。

－登録済みのデータ”TEXTFILE”

－配信要求後の状態

※受動送受信画面１，２の動作は5.6.3と同じです。

5.6.6　　予めパソコンに存在するﾃﾞｰﾀに対しての自動集信要求(JCL)

この処理ではＰＣ又はサーバー上に存在するデータに対して、Azia'n Transfer システムへＪＣＬで集信要求指示を発行します。この要求を受けて受動送受信モードを介しＰＣ端末及びサーバーへの自動集信を行います。この自動集信をするためにはＰＣ又はサーバー上に存在するデータを対象に、(“\AZRECV”)のＪＣＬで Azia'n Transfer システムへの集信要求指示を発行し、これを契機に受動送受信モードの端末から自動集信処理を開始します。それでは集信要求を発行するＪＣＬ例を見てみましょう。

これは端末 “PCL001” に格納されているデータファイルを Azia'n Transfer システムの　加入者 ”KAIKATSU2”, ファイル “TEXTFILE” に格納するためにの自動集信要求を発行します。

```
000010    \AZRECV    FLID=TEXTFILE          AKSCD=KAIKATSU2
000020               RTRMID=PCL001          HKSCD=KAIKATSU2
000030               DSNM=/C6/BASE2.CSV     DV=C;
```

－送信端末から **Azia'n transfer** ｼｽﾃﾑへの自動集信要求発行用 **JCL**－

尚、送信端末が受動送受信モードへ切り替えられていない場合には、状態が「送信要求中」となり、送信元のの端末(ＪＣＬで指定された“RTRMID”の端末)が受動送受信モードに切り替わるまで待機します。送信元の端末が受動送受信モードに切り替わると状態が「送信中」→「未出力」へと変化します。

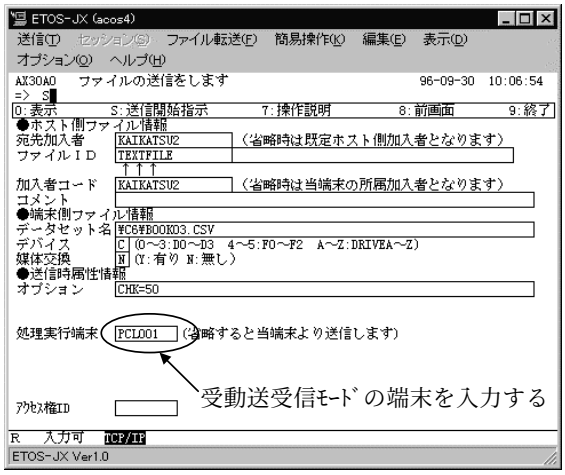
－集信要求後の状態

－受動送受信ﾓｰﾄﾞでの集信直後の状態－

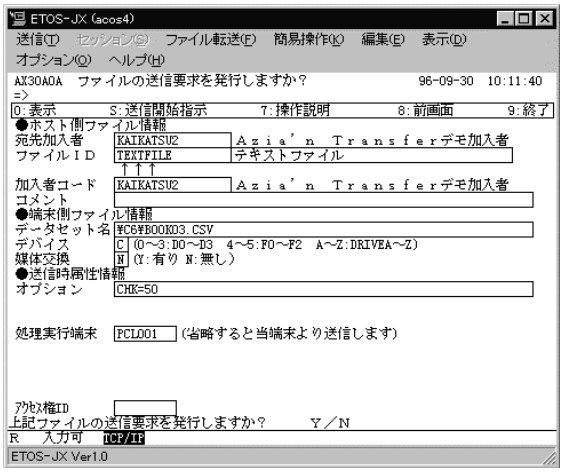
※受動送受信画面１，２の動作は 5.6.3 と同じです。

5.6.7　　予めパソコンに存在するﾃﾞｰﾀに対しての自動集信要求(画面)

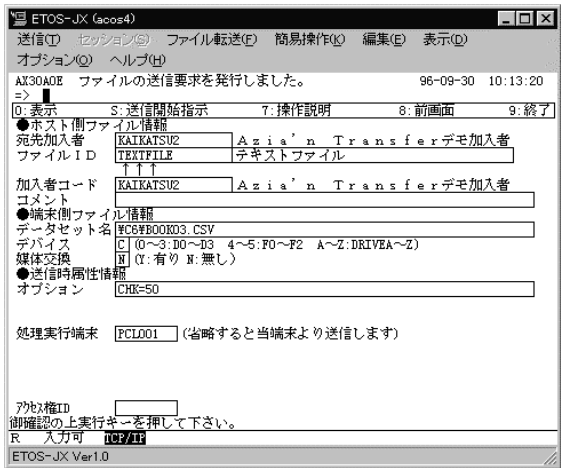
この処理ではＰＣ又はサーバー上に存在するデータに対して、Azia'n Transfer システムへ画面から集信要求指示を発行します。この要求を受けて受動送受信モードを介しＰＣ端末及びサーバーへの自動集信を行います。この自動集信をするためにはＰＣ又はサーバー上に存在するデータを対象に、画面から Azia'n Transfer システムへの集信要求指示を発行し、これを契機に受動送受信モードの端末から自動集信処理を開始します。それでは集信要求を発行する画面例を見てみましょう。



1.自動集信指示画面



2.自動送信要求確認画



3.要求登録後の確認画

4.送信要求登録後の状

これは、端末 “PCL001” に格納されているファイルを Azia'n Transfer システムの加入者 ”KAIKATSU2”, ファイル “TEXTFILE” に格納するために自動集信要求を発行します。送信画面の利用方法は「4.3.2 ﾃｷｽﾄﾃﾞｰﾀを ACOS に送信する」を参照して下さい。

尚、送信元端末が受動送受信モードへ切り替えられていない場合には、状態が「送信要求中」となり、送信元の端末(画面で指定された処理実行端末)が受動送受信モードに切り替わるまで待機します。送信元の端末が受動送受信モードに切り替わると状態が「送信中」→「送信完了」へと変化します。

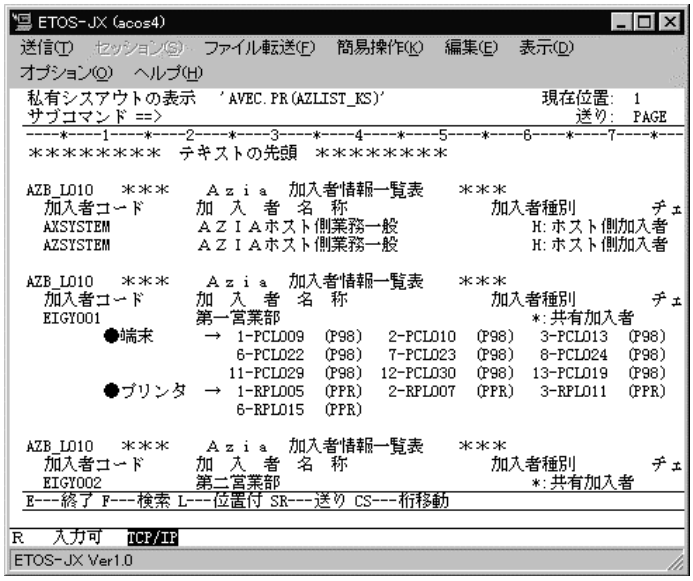
※　受動送受信画面１，２の動作は5.6.3と同じです。

5.7　ＡＣＯＳの帳票を今すぐホームページとして提供

5.7.1　　ＡＣＯＳの業務帳票データをAzia'n Transferへ登録する

ＡＣＯＳの業務で印刷している帳票データ(例えば NIP:日本語ﾌﾟﾘﾝﾀや LP:ﾗｲﾝﾌﾟﾘﾝﾀから印刷している帳票)をパソコン／Ｗｅｂサーバへホームページとして配信する(HTML 形式として変換する)ために一旦 Azia'n Transfer システムへ登録します。 Azia'n Transfer システムへのデータ登録には専用のＪＣＬ(“AZLSET”)を利用して登録します。基本的には印刷又は受信する場合と同じです。

私有シスアウト(AVEC.PR)に ”AZLIST_KS” という名前で存在する帳票ファイルを入力にして加入者 ”KAIKATSU2” の　帳票 “AZLIST_K” へ格納します。



―　入力帳票情報

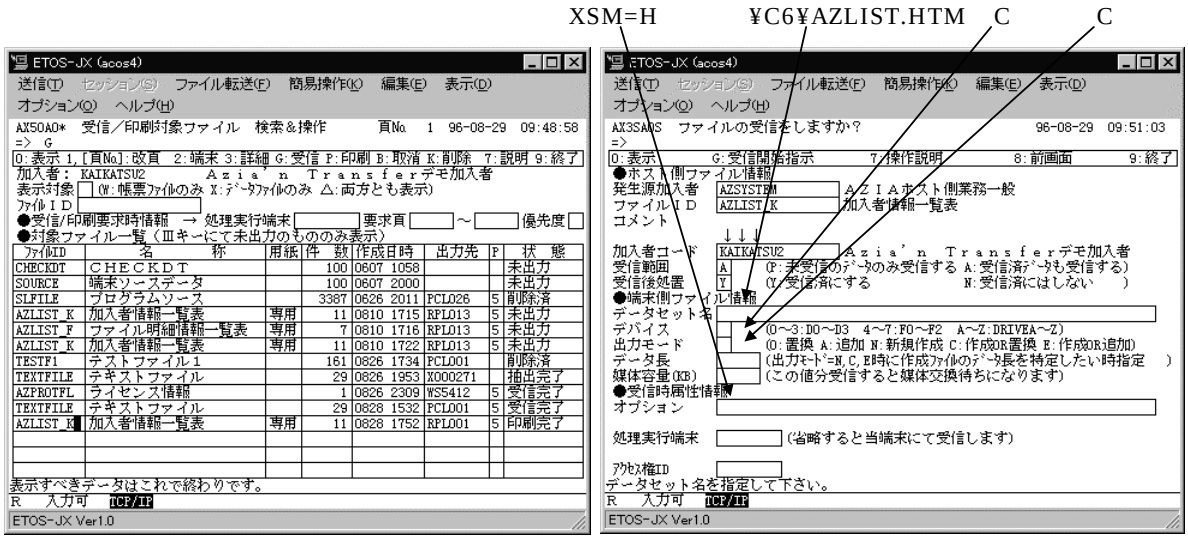
```
000010    \AZLSET
000020              INFILE=(AVEC.PR    SHARE=DIR SUBFILE=AZLIST_KS )
000030              LISTID=AZLIST_K    AKSCD=KAIKATSU2  ATRMID=PCL001
000040              LISTNM='加入者情報一覧表'
000050                 DSNM=/C6/AZLIST.HTM  DV=C
000060                 OPMD=C              OPT=(XSM=H);
```

―**Azia'n transfer** ｼｽﾃﾑへの登録用 **JCL**―

入力データには **Azia'n transfer** システムのサービスプログラムである管理情報リストを使用しました。管理情報リスト**(“AZLIST”)**の利用方法は後で説明しています。

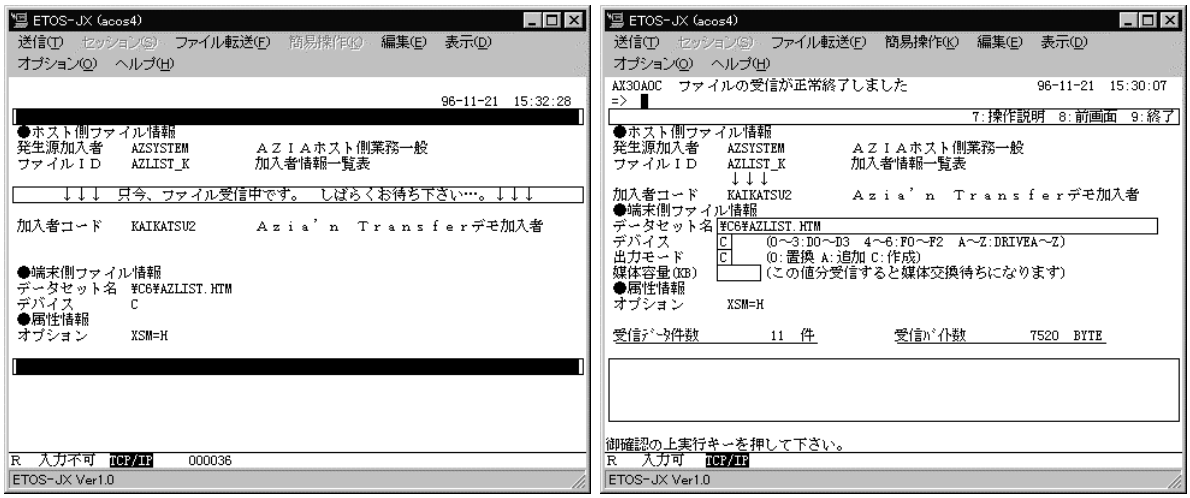
5.7.2　　登録した帳票情報をホームページとして受信する

「 Azia'n Transfer Menu」から受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示されます。次に「番号==>」に”G”と入力し、受信したい帳票明細にカーソルを位置づけて実行キーを押すと「上記ファイル受信を開始しますか？　Ｙ／Ｎ」を聞いてきますので必要項目に値を設定した後”Ｙ”を入力すると受信が始まります。



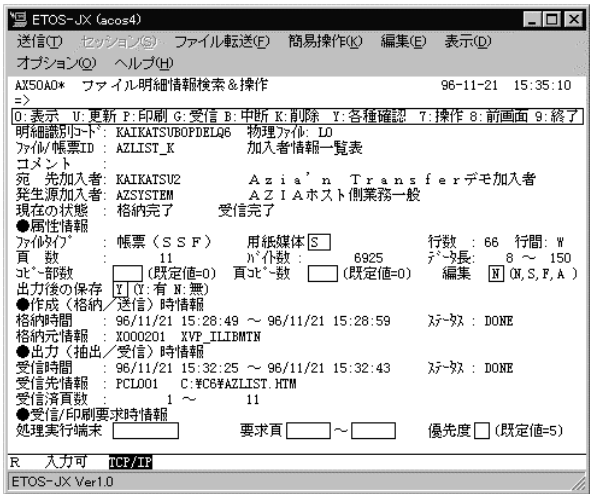
5.7.3　　帳票情報受信中の画面とその確認

帳票情報の受信処理中は「只今、ファイル受信中です。しばらくお待ち下さい。」というメッセージが表示されます。このとき画面下中央に転送件数が表示されますので受信件数の目安にして下さい。受信処理が終了すると受信データ件数、受信バイト数が表示されますので確認した後、実行キーを押下すると初期メニュー「 Azia'n Transfer Menu」に戻ります。



初期メニューから「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”1”を入力し実行キーを押すと「受信／印刷対象ファイル　検索＆操作画面」が表示され先程受信した帳票情報の状態が確認できます。更に詳細な情報が必要な場合には「==>」にカーソルを合わせて”3”を入力し、続いて該当する明細にカーソルを合わせます。この状態で実行キーを押すと「ファイル明細情報検索＆操作」が表示されます。

３．受信／印刷対象ﾌｧｲﾙ　検索＆操作画面

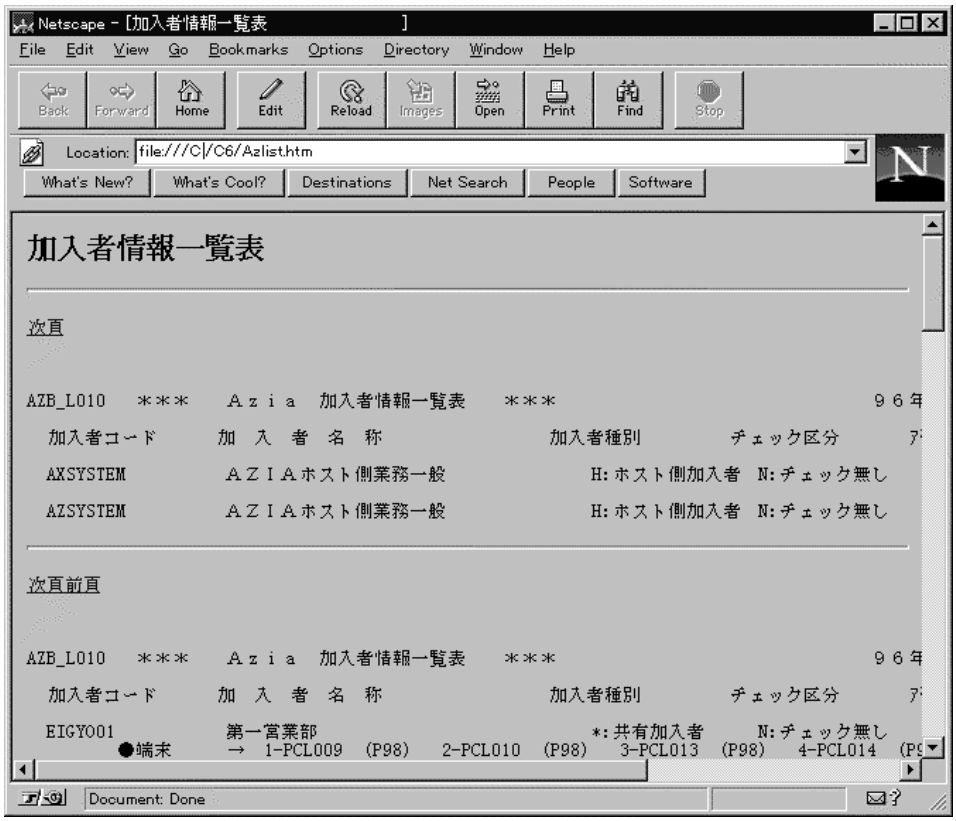


４．ﾌｧｲﾙ明細情報検索＆操作

5.7.4　受信した帳票情報をブラウザで開く

受信した帳票情報をブラウザを使って見てみましょう。

ここでは Internet Explorer でご覧頂きましたが、Netscape Navigator,その他各種ブラウザでもお試し下さい。



今回はＡＣＯＳの帳票をホームページ(HTML 形式)に変換し、ファイルから開く方法をご覧頂きました。尚、Web サーバーへ直接ダウンロードするなど業務と組み合わせることにより、ＡＣＯＳにつながらない端末からでもＡＣＯＳの生情報を取得でき、毎日の人手を介するわずらわしいホームページ更新作業から開放されます。

5.8 Ａｚｉａ'ｎ　ＴｒａｎｓｆｅｒのＲＪＥ機能

Azia'n Transfer のＲＪＥ(Remote Job Entry)機能とは、N5200(S3100,S3050) 又はＰＣ（サーバー）上に存在する、ＪＣＬ記述の含まれるデータをホストへ送信し、ホスト受信完了を契機にして受信したＪＣＬデータを起動することができます。

尚、ホスト処理起動後は本システムからの状態監視はできません。ジョブ実行状況等の監視をする場合には、別コンポーネントであるＡＶＥＣＳ「ＶＩＳジョブ管理システム」及び「ＶＩＳジョブ自動運転システム」との併用をお勧めします。

それでは実際にＲＪＥ機能を使ってＪＣＬを起動してみましょう。

5.8.1　ＡＣＯＳ送信用のＪＣＬデータを用意する

送信後に起動するＪＣＬデータを N5200(S3100,S3050) 又はＰＣ（サーバー）側で用意します。このとき用意するＪＣＬデータは行番号を含まない単純なデータ形式（テキスト形式）のＪＣＬを用意します。尚、ＪＣＬデータ内にＳＹＳＩＮデータが存在していても構いません。

ここではＰＣの「Ｃ：」ドライブ，「¥Ｃ６」ディレクトリに「ＴＥＴＸＦＩＬＥ.ＴＸＴ」というファイルを用意しました。

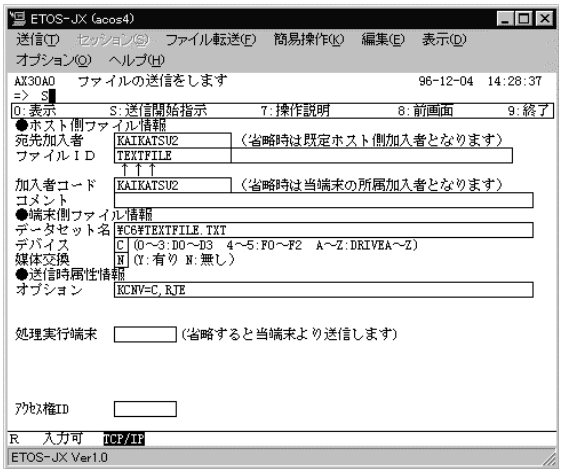
```
*******************************************************************
* ＭＳＧＰＲＩＮＴ：メッセージログ採取処理                          *
*******************************************************************
\JOB MSGPRINT CLASS=P NCLIST REPORT=ABNORMAL;
\JOR OUTID=SPR WRITER=ATSS NOBANNER;
\MSGPRINT  OPTION=DATETIME,DT=(961202/0700,961202/1015)
           WIDTH=80 TEXT=NCMSG CNSL=ALL;
\ENDJOB;
```

－送信後に起動する JCL データ例(ﾒｯｾｰｼﾞﾛｸﾞ採取処理/C:\C6\TETXFILE.TXT)－

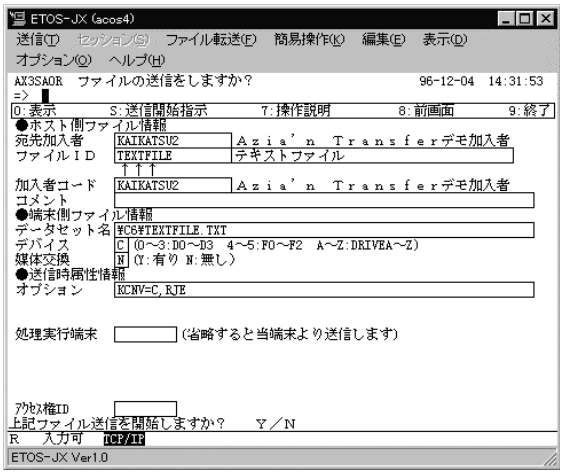
5.8.2　ＪＣＬデータをＡＣＯＳに送信する

「 Azia'n Transfer Menu」からファイルの送信画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて"20"を入力し実行キーを押すと「ファイル送信画面」が表示されます。次に必要項目に値を入力し、この状態で実行キーを押すと「上記ファイル送信を開始しますか？　Ｙ／Ｎ」を聞いてきますので"Ｙ"を入力すると送信が始まります。

このときＲＪＥ機能を利用する場合にはオプション欄に“ＲＪＥ”と入力して下さい。また、送信データ内に漢字が含まれている（漢字をJIPS(E)に変換するがKI,KOは付加しない）場合には、同じくオプション欄に“ＫＣＮＶ＝Ｃ”と入力します。



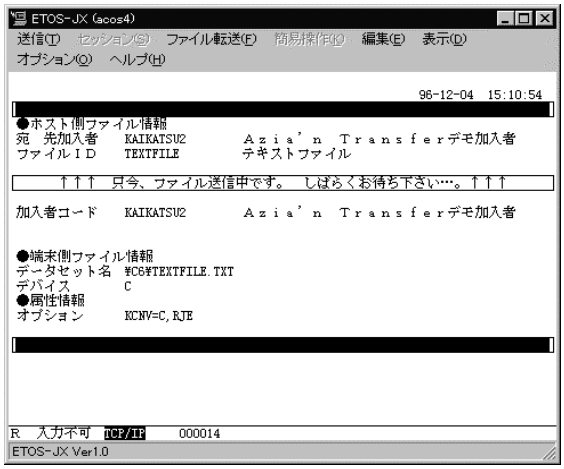
実行キー押下前



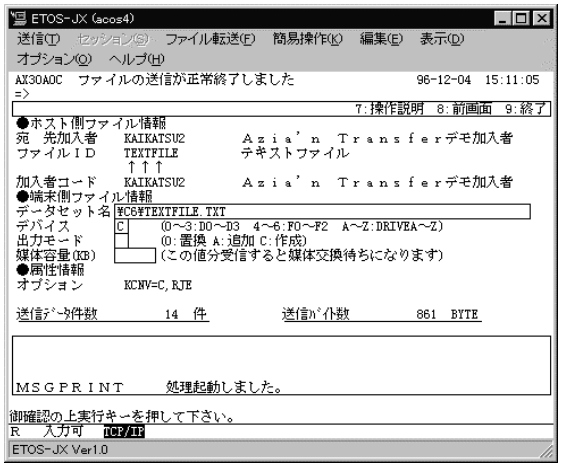
実行キー押下後

5.8.3 ＪＣＬデータ送信中の画面と起動確認

ＪＣＬデータの送信処理中は「只今、ファイル送信中です。しばらくお待ち下さい。」というメッセージが表示されます。このとき画面下中央に送信件数が表示されますので転送件数の目安にして下さい。送信処理が終了すると送信データ件数，送信バイト数，処理起動要求受付けが表示されますので確認した後、実行キーを押下すると初期メニュー「 Azia'n Transfer Menu」に戻ります。



－送信処理中画面



－送信処理終了画面

5.9　加入者毎，又は端末毎に表示するメニューを変える。

Azia'n Transfer のメニュー管理機能では、業務（ＡＰ）接続後の初期表示メニューを加入者毎または端末毎に表示するメニューを使い分けることができます。また動的に変更することもできます。

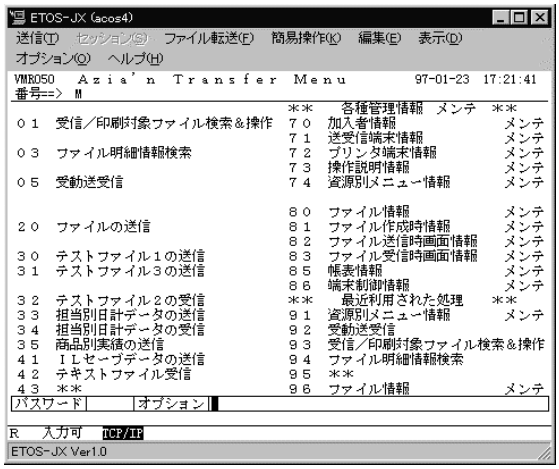
これにより会社全体の端末メニューをきめ細やかに設定することがホスト側から一元管理できます。例えば、部署毎に利用できるメニュー（処理）を限定する。急にある部署から処理をしたいと要望を受けた。このような場合にもホスト側から即座にメンテナンスして要求に応えることができます。

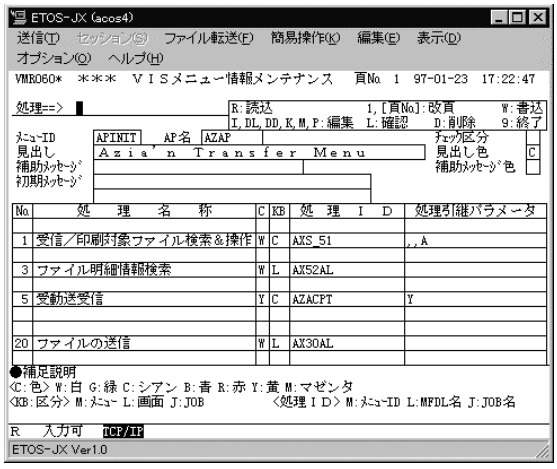
尚、ここでは“ＡＺＡＰ”を例に挙げてご説明していますが、今お使いのユーザー業務側でも Azia'n Transfer 業務で使っておりますメニュー管理機能を業務用メニューとしてご利用頂くことができます。ユーザー業務で当メニュー機能を利用する場合には弊社担当ＳＥまで御相談下さい。

それでは実際に「ＶＩＳメニュー情報メンテナンス」及び「資源別メニュー情報メンテナンス」を操作してメニュー管理を行っててみましょう

5.9.1　　ＶＩＳメニュー情報メンテナンス画面を表示する。

「 Azia'n Transfer Menu」からＶＩＳメニュー情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”M”を入力し、画面下左枠のパスワードを入力後実行キーを押下すると「 ＶＩＳメニュー情報メンテナンス画面」が表示されます。

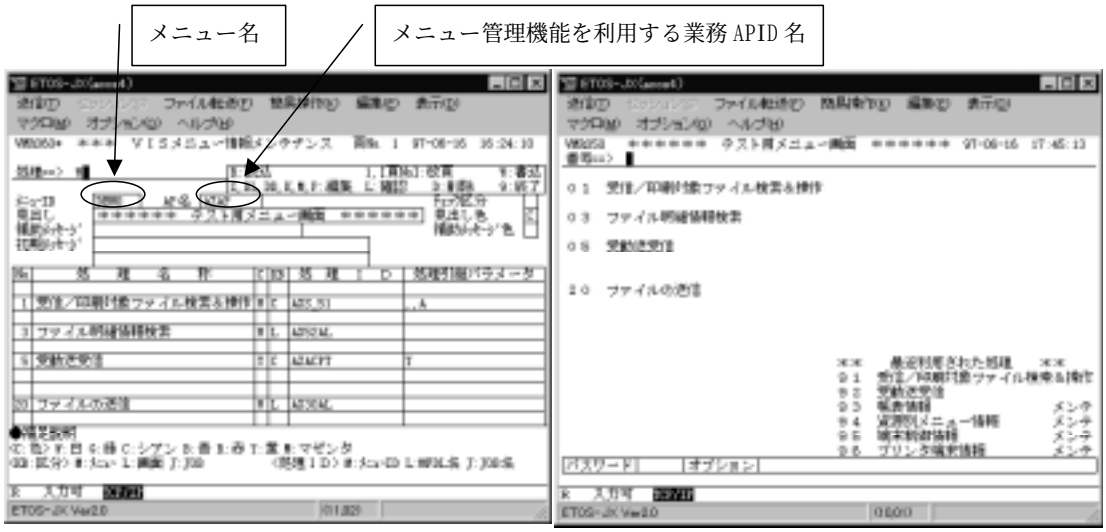




※ＶＩＳメニュー情報メンテナンスの詳細に付きましては「ＶＩＳメニュー管理システム説明書」をご覧ください

5.9.2　　個別メニュー画面を作成する。

メニュー内容，メニューＩＤ，ＡＰ名を入力の後、「処理==>」の位置で”W”を入力して実行を押下します。画面下に「更新が正常終了しました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正して下さい。



－　登録画面　－　　－　登録画面の表示例　－

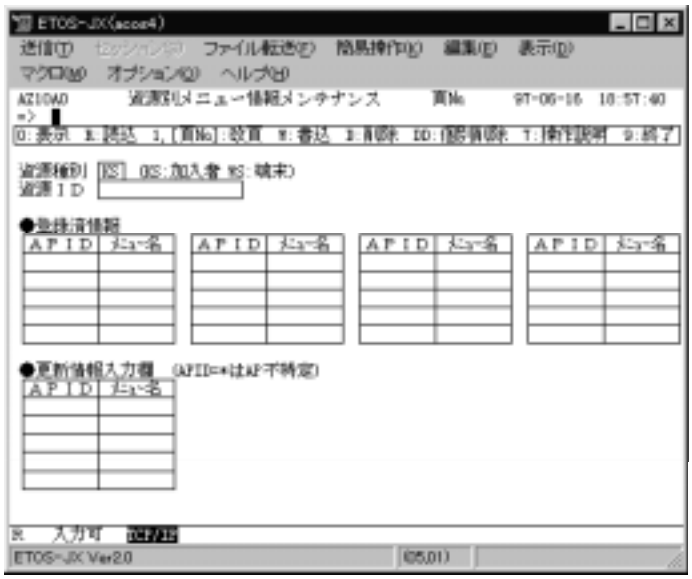
それでは、今登録したメニュー画面を表示してみましょう。「 Azia'n Transfer Menu」に戻り「番号==>」に位置づけて ”R DEMO” と入力します。次に画面下左枠のパスワードを入力後実行キーを押下すると、たった今作成したメニュー画面が表示されます（上記図　－登録画面の表示例－）。

注意：この段階では登録したメニューを表示する方法は上記手段のみです。

ここで重要（キー情報）となるのが**メニューＩＤ**と**ＡＰ名**です。これを次にご説明する資源別メニュー情報メンテナンス画面で登録することにより、端末毎，又は加入者毎に最初に表示するメニューの内容を使い分けることができます。

5.9.3　　資源別メニュー情報メンテナンス画面を表示する。

「 Azia'n Transfer Menu」から資源別メニュー情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて"74"を入力し実行キーを押すと「資源別メニュー情報メンテナンス画面」が表示されます。



5.9.4　　資源別メニュー情報を登録する。

資源種別(KS or WS), 資源ＩＤ(加入者ｺｰﾄﾞ or 端末 ID)と先程登録したメニューキー情報(APID,ﾒﾆｭｰ名)を入力し実行を押下します。画面下に「資源別メニュー情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録処理は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正して下さい。

以上で登録処理は完了です。それでは一度ＡＰをログアウトして再度ログインして見て下さい。先程登録したメニューがログイン直後の第一画面として表示されます。

5.10　Azia'n Transfer 経由印刷後のプリンタ制御

Azia'n Transfer からフォームオーバーレイや印刷ピッチを変更して印刷した場合に、それに続く帳票（Azia'n Transfer 以外から印刷された帳票）が直前に印刷していた帳票の制御情報に影響され、ピッチ，桁ずれや印刷障害などを引き起こす場合が有ります。これは Azia'n Transfer の場合にも同じことが考えられますが、Azia'n Transfer では文字ピッチなどを意識しながら印刷しているため帳票情報メンテナンス画面またはＪＣＬから指示するだけで対応でき、他の処理からはそれほど影響は受けません。

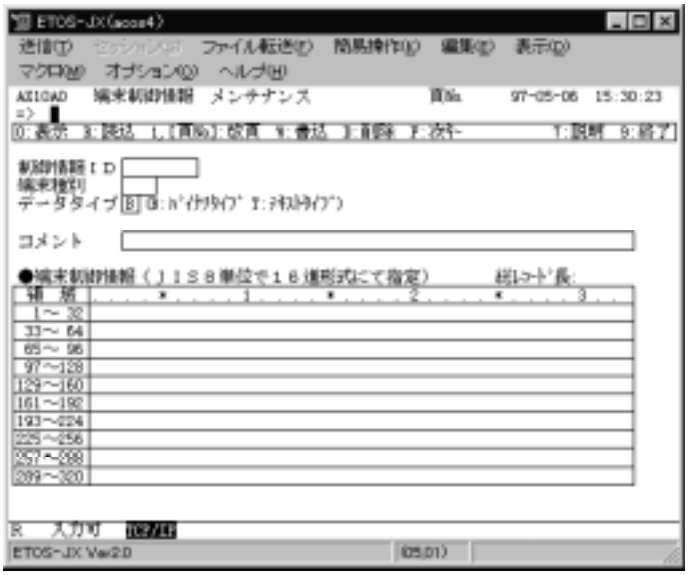
しかし、帳票の種類が様々でいろんな方面から印刷する場合に Azia'n Transfer だけで運用することは難しくなります。この様にいろんな環境から印刷する場合の対策として、Azia'n Transfer では印刷終了後にプリンタ及び帳票に対してシーケンスを強制的に排出し、後続の帳票に影響を与えない印刷を制御することができます。

尚、情報系プリンタとＰＣ２０１系，ＮＰＤＬ系とプリンタ毎にシーケンスコードは異なりますのでプリンタマニュアルを参照して正しく登録してください。登録方法が分からない場合には安易に登録せず、弊社ＳＥにご相談下さい。

それでは実際に端末制御情報メンテナンス画面を使ってシーケンス情報の登録とその機能を使って印刷してみましょう。

5.10.1　端末制御情報メンテナンス画面を表示する

「 Azia'n Transfer Menu」から端末制御情報メンテナンス画面を表示してみましょう。「番号==>」にカーソルを合わせて”86”を入力し実行キーを押すと「端末制御情報メンテナンス画面」が表示されます。



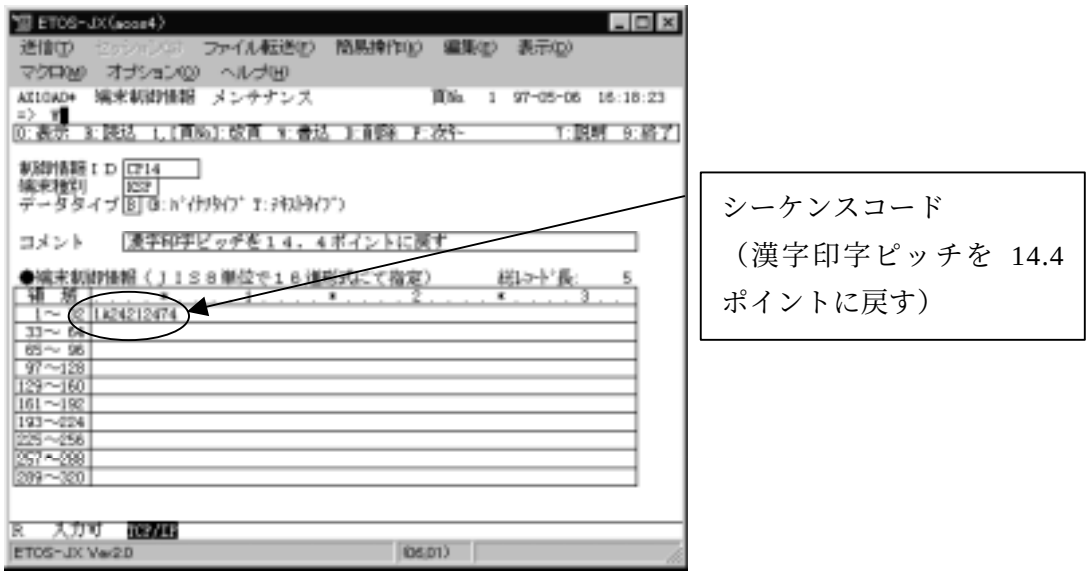
―　端末制御情報ﾒﾝﾃﾅﾝｽ画面　―

5.10.2　端末制御情報メンテナンス画面を使ってシーケンスを登録する

制御情報ID，端末種別，データタイプ，端末制御情報を入力した後に「==>」に”W”と入力し、実行キーを押すと端末制御情報が登録されます。画面下に「端末制御情報のメンテナンスを行いました。」というメッセージが表示されれば登録は正常終了しました。これ以外のメッセージが表示された場合には指示に従い修正してください。

尚、ここでは情報系プリンタに対して Azia'n Transfer から日本語ピッチ 10.8 ポイントでの印刷終了後、14.4 ポイントに戻すシーケンスを送出する登録を行っています。

複数のシーケンスを送出させて状態を変更したい場合には最初に設定した端末制御情報に続けてシーケンスコードを入力してください。



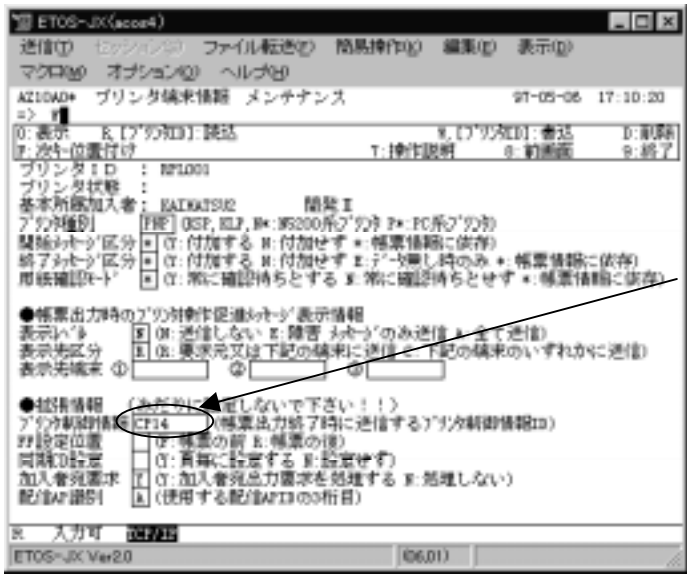
<端末制御情報例>

漢字印字ﾋﾟｯﾁを 14.4ﾎﾟｲﾝﾄに戻す 1A24212474
漢字印字ﾋﾟｯﾁを 14.4ﾎﾟｲﾝﾄに戻し、且つ漢字文字ｻｲｽﾞを標準に戻す 1A242124741A26212068212078

この画面のキー項目は「制御情報 ID」「端末種別」となります。次にご説明するプリンタ端末情報メンテナンス及び帳票情報メンテナンスではここで登録した「制御情報 ID」を登録することになりますので忘れないで下さい。

5.10.3　登録したシーケンスをプリンタ単位に設定する

「 Azia'n Transfer Menu」からプリンタ情報メンテナンス画面を表示します。ここで対象となるプリンタを呼び出した後に先程登録した制御情報 ID を入力し書き込みます。尚、先程の登録(5.10.2)で入力した端末種別が当画面のプリンタ種別と一致していなければなりません。一致していない場合には正常に動作しませんのでご注意ください。

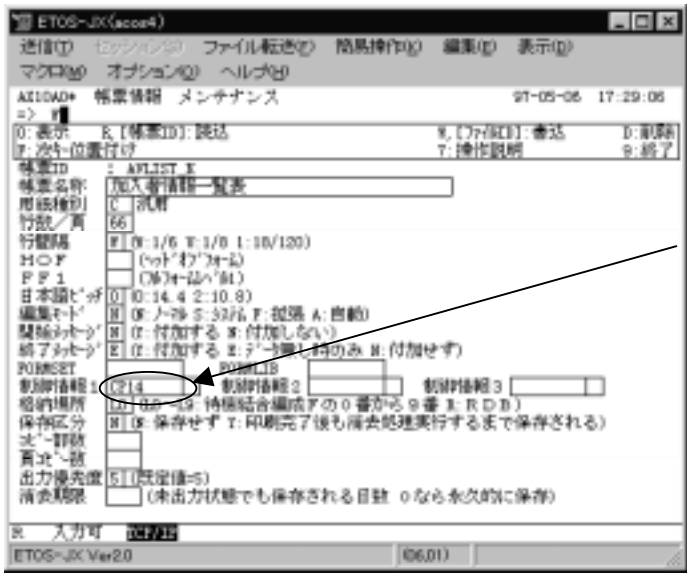


登録した制御情報 ID を入力する。この際ﾌﾟﾘﾝﾀ種別も同様の形式で予め登録されていなければならない。

以上でプリンタ登録は完了します。それでは\AZLSET から実行して印刷してください。

5.10.4　登録したシーケンスを帳票単位に設定する

「 Azia'n Transfer Menu」から帳票情報メンテナンス画面を表示します。ここで対象となる帳票を呼び出した後に先程登録した制御情報 ID を入力し書き込みます。



登録した制御情報 ID を入力する。

以上で帳票登録は完了します。それでは\AZLSET から実行して印刷してください。

5.11　Azia'n Transfer を使った PC-COBOL の利用

今迄情報系端末(N5200 等)で利用されていた COBOL プログラムをサーバー又はクライアント上で動く PC-COBOL に置換えた場合、PC で扱えるデータ形式が一般に**テキスト形式**と言われる区切り文字や改行コード(CRLF)等が付加されたデータ形式であるため、ソースプログラムの修正が必要となりました(ORGANIZATION IS LINE SEQUENTIAL 指定)。

尚、PC-COBOL の場合にはこのテキスト形式の他に**固定長順ファイル**という区切り文字や改行コード(CRLF)等が要らない特別なデータ形式が利用できます。これは業務システムを N5200 から PC に置換えた場合でも、入力となるデータ形式は情報系端末(N5200 等)で利用されていた従来形式と全く同じ形式で取り込むことができるため、元のプログラムにはほとんど手を加える必要がありません(ORGANIZATION IS SEQUENTIAL 指定)。

この章ではこの従来形式のデータ（固定長順ファイル）を利用する場合に Azia'n Transfer を使ってホストから PC へデータをダウンロード, PC からホストへアップロードして PC-COBOL を動かすための方法と注意事項を記述します。

5.11.1　固定長順ﾌｧｲﾙをAzia'n Transferシステムに登録する

従来形式のデータ（固定長順ファイル）を\AZFSET マクロを利用して Azia'n Transfer に登録します。

このとき入力データのフォーマット変換を必要としない場合にはプラグインモジュール(PLUG～)を利用する必要はありません。入力データのフォーマット変換が必要となる場合として次の内容に該当する場合にはフォーマット変換を施して下さい。

① 転送対象データに漢字が含まれている場合には必ずシフトコード(KIKO)を付加する必要があります。この時、まだ対象データにシフトコード付加処置が施されていない場合。

② ホスト側ファイルと PC 側ファイルとの間でデータ格納形式が異なる場合。

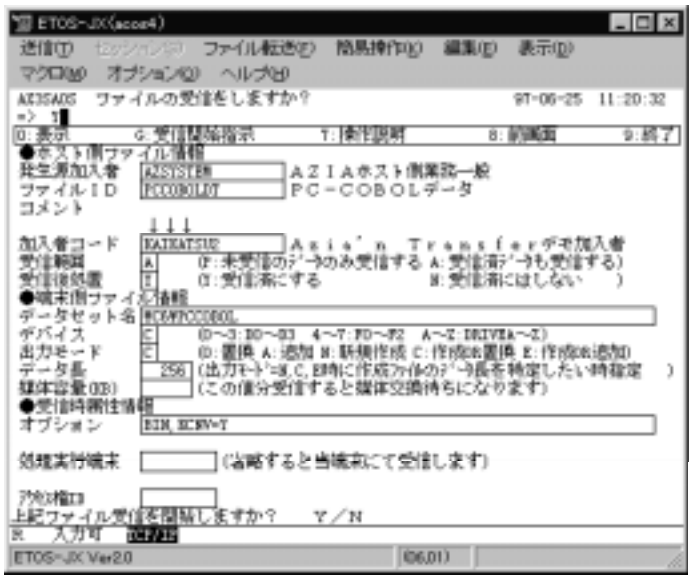
例えば数字項目でホスト上では COMP-3 形式で利用されているが PC 側では S9 形式で利用されている場合。ANK, 漢字項目でも桁数が異なる場合。レコード長が異なる場合等。

尚、JCL では次の OLENG,OPT は必ず指定して下さい。詳細は Azia'n Transfer システム説明書(5-B)を参照して下さい。

```
\AZFSET     ～
            OLENG=データ長
            OPT=(BIN,KCNV=Y);     ※バイナリ転送, 漢字変換
```

5.11.2　登録された固定長順ファイルをパソコンに受信する

従来形式のデータ（固定長順ファイル）を Azia'n Transfer を使って PC に受信します。操作はテキストデータを受信したときと同じです。尚、\AZFSET でデータ長，オプション(BIN,KCNV=Y)を指定しなかった場合には以下の画面から入力することもできます。



この受信処理が完了すると PC-COBOL 用データとして利用することができます。

5.11.3　固定長順ファイルをホストに送信する

従来形式のデータ（固定長順ファイル）を Azia'n Transfer（ファイルの送信画面）を使ってホストに送信します。操作はテキストデータを送信したときと同じです。

尚、従来形式のデータ（固定長順ファイル）を扱う場合の必須入力項目としてデータ長，オプション(BIN,KCNV=Y)を指定する必要があります。

5.11.4　登録された固定長順ﾌｧｲﾙをAzia'n Transferシステムから取得する

従来形式のデータ（固定長順ファイル）を\AZFGET マクロを利用して Azia'n Transfer から取得します。

このとき出力データのフォーマット変換を必要としない場合にはプラグインモジュール(PLUG～)を利用する必要はありません。出力データのフォーマット変換が必要となる場合として次の内容に該当する場合にはフォーマット変換を施して下さい。

③　転送対象データに漢字が含まれている場合でホストでそのデータを利用する場合にはシフトコード(KIKO)を除去する必要があります。

④　ホスト側ファイルと PC 側ファイルとの間でデータ格納形式が異なる場合。

例えば数字項目でホスト上では COMP-3 形式で利用されているが PC 側では S9 形式で利用されている場合。ANK，漢字項目でも桁数が異なる場合。レコード長が異なる場合等。

尚、JCL ではテキストデータを取得する場合と同じです。詳細は Azia'n Transfer システム説明書(5-B)を参照して下さい。

```
\AZFGET      ～
             ;
```

6 ヘルプを使う

Azia'n Transferには、操作方法、注意点などをまとめた「説明：オンラインヘルプ」というものが用意されています。これを使えば、その度にマニュアルを開かなくても、Azia'n Transferを操作していく上での不明点、語の意味などがわかります。

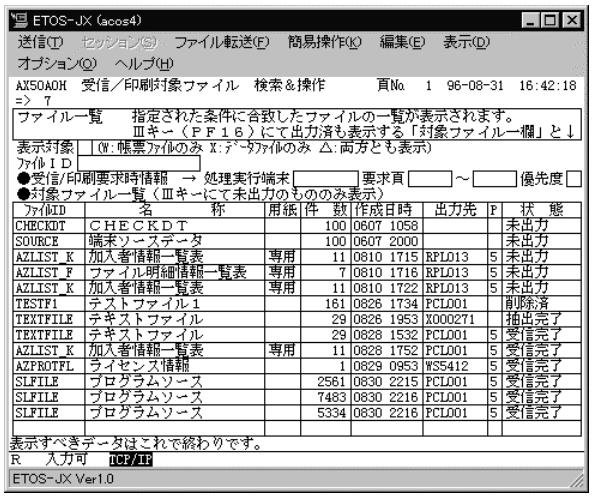
6.1　説明（ヘルプ）の使い方

説明（ヘルプ）は、どんな画面にも大概付いています。受信／印刷対象ファイル検索＆操作画面のメニューバーを見てみましょう。一番右側に説明（ヘルプ）があります。

```
AX50A0*  受信／印刷対象ファイル    検索＆操作          頁 NO   1  96-08-31 16:09:58
=>  7■
0:表示 1,[頁 NO]:改頁  2:端末 3:詳細 G:受信 P:印刷 B:取消 K:削除  7:説明 9:終了
```

オンラインヘルプマニュアル

このオンラインヘルプ「７：説明」を選択し実行キーを押すと、画面の操作方法や項目説明が表示されます。また、「７：説明」を選択し、画面上の対象項目にカーソルを位置づけて実行キーを押すと用語の意味を調べることが出来ます。

オンラインヘルプ画面の次の画面を表示するには、「７：説明」を選択したまま再度実行キーを押すと画面がスクロールします。

オンラインヘルプ画面を終了させるには現在選択している「７：説明」を解除し、実行キーを押すと、オンラインヘルプ画面が終了します。